

【 大学院聴講生 】

※2022年3月7日現在

担当専修	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否 大学院聴講生	シラバス連番	備考
日本史学	6631001	日本史学(特殊講義)	2	前期	火	2			谷川 穰	日本語	○	歴史文化学1	
日本史学	6631002	日本史学(特殊講義)	2	後期	火	4			三宅 正浩	日本語	○	歴史文化学2	
日本史学	6631003	日本史学(特殊講義)	2	前期	月	4			笹川 尚紀	日本語	○	歴史文化学3	
日本史学	6631004	日本史学(特殊講義)	2	前期	月	2			岩城 卓二	日本語	○	歴史文化学4	
日本史学	6631005	日本史学(特殊講義)	2	後期	月	2			岩城 卓二	日本語	○	歴史文化学5	
日本史学	6631006	日本史学(特殊講義)	2	前期	火	4			福家 崇洋	日本語	○	歴史文化学6	
日本史学	6631007	日本史学(特殊講義)	2	後期	月	4			市 大樹	日本語	○	歴史文化学7	
日本史学	6631008	日本史学(特殊講義)	2	後期	月	3			岩崎 奈緒子	日本語	○	歴史文化学8	
日本史学	6631009	日本史学(特殊講義)	2	後期	火	2			上島 享	日本語	○	歴史文化学9	
日本史学	6631010	日本史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			藤原 重雄	日本語	○	歴史文化学10	
日本史学	6631011	日本史学(特殊講義)	2	後期	火	5			内山 一幸	日本語	○	歴史文化学11	
日本史学	6631014	日本史学(特殊講義)	2	前期	木	3			熊谷 隆之	日本語	○	歴史文化学12	
日本史学	6631015	日本史学(特殊講義)	2	後期	木	3			熊谷 隆之	日本語	○	歴史文化学13	
日本史学	6631016	日本史学(特殊講義)	2	前期	木	2			吉江 崇	日本語	○	歴史文化学14	
日本史学	6631017	日本史学(特殊講義)	2	後期	木	2			吉江 崇	日本語	○	歴史文化学15	
日本史学	6631018	日本史学(特殊講義)	2	後期	金	4			鍛冶 崇介	日本語	○	歴史文化学16	
日本史学	6631019	日本史学(特殊講義)	2	前期	水	2			宇佐見 隆之	日本語	○	歴史文化学17	
東洋史学	6731001	東洋史学(特殊講義)	2	前期	火	4			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学18	
東洋史学	6731002	東洋史学(特殊講義)	2	後期	火	4			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学19	
東洋史学	6731003	東洋史学(特殊講義)	2	前期	月	4			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学20	
東洋史学	6731004	東洋史学(特殊講義)	2	後期	月	4			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学21	
東洋史学	6731005	東洋史学(特殊講義)	2	前期	木	1			高嶋 航	日本語	○	歴史文化学22	
東洋史学	6731006	東洋史学(特殊講義)	2	後期	木	1			高嶋 航	日本語	○	歴史文化学23	
東洋史学	6731013	東洋史学(特殊講義)	2	前期	火	1			矢木 毅	日本語	○	歴史文化学24	
東洋史学	6731014	東洋史学(特殊講義)	2	後期	火	1			矢木 毅	日本語	○	歴史文化学25	
東洋史学	6731018	東洋史学(特殊講義)	2	前期	水	4			承 志	日本語	○	歴史文化学26	
東洋史学	6731019	東洋史学(特殊講義)	2	後期	水	4			承 志	日本語	○	歴史文化学27	
東洋史学	6731023	東洋史学(特殊講義)	2	前期	月	2			宮宅 潔	日本語	○	歴史文化学28	
東洋史学	6731024	東洋史学(特殊講義)	2	後期	月	2			宮宅 潔	日本語	○	歴史文化学29	
東洋史学	6731027	東洋史学(特殊講義)	2	前期	水	1			古松 崇志	日本語	○	歴史文化学30	
東洋史学	6731028	東洋史学(特殊講義)	2	後期	水	1			古松 崇志	日本語	○	歴史文化学31	
東洋史学	6741001	東洋史学(演習I)	2	前期	金	3			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学32	
東洋史学	6741002	東洋史学(演習I)	2	後期	金	3			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学33	
東洋史学	6743001	東洋史学(演習II)	2	前期	火	5			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学34	
東洋史学	6743002	東洋史学(演習II)	2	後期	火	5			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学35	
東洋史学	6745001	東洋史学(演習III)	2	前期	金	1			高嶋 航	日本語	○	歴史文化学36	
東洋史学	6745002	東洋史学(演習III)	2	後期	金	1			高嶋 航	日本語	○	歴史文化学37	
東洋史学	M303001	東洋史学(演習)	2	前期	金	5			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学38	
東洋史学	M303002	東洋史学(演習)	2	後期	金	5			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学39	
東洋史学	M303003	東洋史学(演習)	2	前期	月	5			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学40	
東洋史学	M303004	東洋史学(演習)	2	後期	月	5			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学41	
西南アジア史学	6831004	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期	木	3			仁子 寿晴	日本語	○	歴史文化学42	
西南アジア史学	6831005	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期	月	3			山口 元樹	日本語	○	歴史文化学43	
西南アジア史学	6831006	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期	水	4			稲葉 穰	日本語	○	歴史文化学44	
西南アジア史学	6831007	西南アジア史学(特殊講義)	2	後期	水	2			帯谷 知可	日本語	○	歴史文化学45	
西南アジア史学	6831009	西南アジア史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			五十嵐 大介	日本語	○	歴史文化学46	
西南アジア史学	6831011	西南アジア史学(特殊講義)	2	後期	月	3			磯貝 健一	日本語	○	歴史文化学47	
西南アジア史学	6842001	西南アジア史学(演習II)	4	通年	火	2			磯貝 健一	日本語	○	歴史文化学48	
西南アジア史学	6844001	西南アジア史学(演習II)	2	前期	金	3			伊藤 隆郎	日本語	○	歴史文化学49	
西南アジア史学	6844002	西南アジア史学(演習II)	2	後期	金	3			伊藤 隆郎	日本語	○	歴史文化学50	
西南アジア史学	6850001	西南アジア史学(講読)	4	通年	金	1			今松 泰	日本語	○	歴史文化学51	
西南アジア史学	6851002	西南アジア史学(講読)	2	前期	月	2			磯貝 健一	日本語	○	歴史文化学52	
西南アジア史学	6851003	西南アジア史学(講読)	2	後期	月	2			稲葉 穰	日本語	○	歴史文化学53	
西南アジア史学	9608001	西南アジア史学(語学)	4	通年	金	2			杉山 雅樹	日本語	○	歴史文化学54	
西洋史学	6931004	西洋史学(特殊講義)	2	前期	火	2			水谷 智	日本語	○	歴史文化学55	
西洋史学	6931005	西洋史学(特殊講義)	2	前期	火	4			竹下 哲文	日本語	○	歴史文化学56	
西洋史学	6931006	西洋史学(特殊講義)	2	後期	火	4			竹下 哲文	日本語	○	歴史文化学57	
西洋史学	6931007	西洋史学(特殊講義)	2	前期	月	2			伊藤 順二	日本語	○	歴史文化学58	
西洋史学	6931008	西洋史学(特殊講義)	2	後期	月	2			伊藤 順二	日本語	○	歴史文化学59	
西洋史学	6931009	西洋史学(特殊講義)	2	前期	水	3			見瀬 悠	日本語	○	歴史文化学60	
西洋史学	6931010	西洋史学(特殊講義)	2	後期	木	2			國師 宣忠	日本語	○	歴史文化学61	
西洋史学	6931011	西洋史学(特殊講義)	2	前期	水	4			小関 隆	日本語	○	歴史文化学62	
西洋史学	6931012	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	4			小関 隆	日本語	○	歴史文化学63	
西洋史学	6931014	西洋史学(特殊講義)	2	前期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	歴史文化学64	
西洋史学	6931015	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	歴史文化学65	
西洋史学	6931016	西洋史学(特殊講義)	2	前期	火	5			藤井 崇	日本語	○	歴史文化学66	
西洋史学	6931017	西洋史学(特殊講義)	2	後期	火	5			藤井 崇	日本語	○	歴史文化学67	
西洋史学	6931018	西洋史学(特殊講義)	2	前期	水	5			小山 哲	日本語	○	歴史文化学68	
西洋史学	6931019	西洋史学(特殊講義)	2	後期	水	5			小山 哲	日本語	○	歴史文化学69	
西洋史学	6931003	西洋史学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			南雲 泰輔	日本語	○	歴史文化学70	
西洋史学	6961001	西洋史学(講読)	2	前期	火	4			小山 哲	日本語	○	歴史文化学71	
西洋史学	6971001	西洋史学(演習I)	2	前期	金	5			藤井 崇	日本語	○	歴史文化学72	
西洋史学	6971002	西洋史学(演習I)	2	後期	金	5			藤井 崇	日本語	○	歴史文化学73	
西洋史学	6972001	西洋史学(演習II)	2	前期	金	5			佐藤 公美	日本語	○	歴史文化学74	
西洋史学	6972002	西洋史学(演習II)	2	後期	金	5			佐藤 公美	日本語	○	歴史文化学75	
西洋史学	6973001	西洋史学(演習III)	2	前期	金	5			小山 哲	日本語	○	歴史文化学76	
西洋史学	6973002	西洋史学(演習III)	2	後期	金	5			小山 哲	日本語	○	歴史文化学77	
西洋史学	6974001	西洋史学(演習IV)	2	前期	金	5			金澤 周作	日本語	○	歴史文化学78	
西洋史学	6974002	西洋史学(演習IV)	2	後期	金	5			金澤 周作	日本語	○	歴史文化学79	
考古学	7031001	考古学(特殊講義)	2	前期	水	3			吉井 秀夫	日本語	○	歴史文化学80	
考古学	7031002	考古学(特殊講義)	2	後期	水	3			吉井 秀夫	日本語	○	歴史文化学81	
考古学	7031009	考古学(特殊講義)	2	前期	金	3			下垣 仁志	日本語	○	歴史文化学82	
考古学	7031010	考古学(特殊講義)	2	後期	金	3			下垣 仁志	日本語	○	歴史文化学83	
日本史学	6601001	系共通科目(日本史学)講義	4	通年	水	5			吉川 真司	日本語	○	歴史文化学84	学部科目
東洋史学	6701001	系共通科目(東洋史学)講義	4	通年	火	2			吉本 道雅	日本語	○	歴史文化学85	学部科目
東洋史学	6750001	東洋史学(講読)	4	通年	水	4			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学86	学部科目
東洋史学	6750002	東洋史学(講読)	4	通年	水	2			中砂 明德	日本語	○	歴史文化学87	学部科目

担当専修	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間1	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス連番	備考
											大学院聴講生		
東洋史学	6761001	東洋史学(実習)	2	通年	水	5			吉本道雅, 中砂明德, 高嶋航	日本語	○	歴史文化学88	学部科目
西南アジア史学	6801001	系共通科目(西南アジア史学)(講義)	4	通年	水	2			磯貝健一	日本語	○	歴史文化学89	学部科目
西南アジア史学	6840001	西南アジア史学(演習I)	4	通年	火	3			磯貝健一	日本語	○	歴史文化学90	学部科目
西南アジア史学	6861001	西南アジア史学(実習)	1	後期	月	4			磯貝健一	日本語	○	歴史文化学91	学部科目
西南アジア史学	6861002	西南アジア史学(実習)	1	前期	月	4			磯貝健一	日本語	○	歴史文化学92	学部科目
西洋史学	6901001	系共通科目(西洋史学)(講義)	4	通年	火	4			金澤周作	日本語	○	歴史文化学93	学部科目
西洋史学	6956001	西洋史学(講読)	2	前期	火	1			藤井崇	日本語	○	歴史文化学94	学部科目
西洋史学	6956002	西洋史学(講読)	2	後期	火	1			藤井崇	日本語	○	歴史文化学95	学部科目
西洋史学	6957001	西洋史学(講読)	2	前期	木	1			小山哲	日本語	○	歴史文化学96	学部科目
西洋史学	6957002	西洋史学(講読)	2	後期	木	1			小山哲	日本語	○	歴史文化学97	学部科目
西洋史学	6958001	西洋史学(講読)	2	前期	火	3			伊藤順二	日本語	○	歴史文化学98	学部科目
西洋史学	6958002	西洋史学(講読)	2	後期	火	3			伊藤順二	日本語	○	歴史文化学99	学部科目
考古学	8007001	博物館学III(講義)	2	後期	水	2			宮川禎一	日本語	○	歴史文化学100	学部科目

歴史文化学1

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 谷川 穰			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代日本社会史の研究 豚を中心に									
【授業の概要・目的】											
近代日本社会の形成・展開の様相を論じる。中心課題となるのは、主として明治期の「豚」である。とはいえ、豚をめぐる歴史トリビア・こぼれ話を羅列的に開陳するものでは決してない。明治初年の養豚結社やその思想、受容した人々の動きを解き明かすとともに、それを起点に政治・文化・環境・軍事・貧困・宗教などさまざまな論点につらなる近代日本の見方を、歴史学の立場から講じる。											
【到達目標】											
近代日本社会の形成・変容の歴史に対する理解を深め、視野を広げられるようになる。また多様な史料（未刊行の手稿史料も含む）を用いて実証的に論じる歴史学の手法を習得するとともに、歴史研究の対象と自己との関係がいかにあるべきかを、重層的に考えられるようになる。さらに、講義内容を批判的に再考することで、自らの問題意識を反映した論文作成の能力をより高めることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回はイントロダクション、最終回（15回目）は「まとめ」。以下のトピックを受講生の理解度も勘案しつつ各1～2回講じる予定。 <ul style="list-style-type: none"> ・幕末までの豚と社会 ・養豚結社・協救社の成立 ・『協救社衍義草稿』の国益論と「文明開化」 ・ある養豚事業の行方 京都・両替商荒木家の場合 ・ある養豚事業の行方 東京・米屋田中家の場合 ・近代学知のなかの豚 畜産学と養豚手引書 ・豚をめぐる国際関係史 「豚コレラ」と豚（肉）貿易 ・養豚奨励法の成立とその政治史的意義 ・戦争と豚肉 ・豚肉食の定着と養豚の「記憶」 											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

期末のレポート（70％）と授業中に実施予定の小レポート（30％）で総合的に判断する。レポートにおいては、自らの見解を論理的、ないし歴史学的手法に即して実証的に論じることができているかを評価基準とする。

[教科書]

授業に際してはハンドアウト・史料プリントを配布する予定である。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講生が各自の興味関心にしながら独力で考え実践する。ただし授業において参考文献も示すので、適宜それを読み、自らの考えを深めるよすがとしてもらえればと思う。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学2

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世武家社会研究									
【授業の概要・目的】											
<p>近年の日本近世史研究は、史料批判をしつつ、一次史料にもとづいて政治過程を描き出す手法が求められる段階に到達している。従来の通説的理解を一次史料を駆使して塗り替えつつ、新たな方法論と論点を獲得する過程を示すことで、日本近世史研究の基礎的方法と面白さを示したい。</p> <p>担当者は、主に武家文書（書状・日記・法令などの一次史料と編纂史料などの二次史料）を用いて、近世前期の政治史を研究している。特に、大名家の政治構造や幕藩関係に着目しつつ、近世国家が如何なる過程を経て形成され、その結果として如何なる構造・特質を有することになったのかを中長期的に考えているところである。</p> <p>今年度は、近世初頭の武家の世代差という観点を念頭に、蜂須賀正勝・家政関係文書の分析をおこなう。</p> <p>授業では、具体的な史料を示し、その解釈を説明しながら論じていくことになる。知識ではなく、授業を通して示される研究手法をこそ学んでもらいたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近世の史料、特に前期の政治史・武家社会に関する史料を読み解くための基礎的能力を向上させ、発展的に応用する視角と方法論を獲得する。期末には、自己の課題にもとづいて様々な史料をとりあげて読み込み、レポートを作成できるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下に示したテーマ・回数・順番については固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況、また、担当者の研究進展状況や学界動向に伴い、変更がありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 近世国家形成過程をどう捉えるか 【2週】 2. 近世大名の文書 【2週】 3. 蜂須賀正勝関係文書の分析 【4週】 4. 蜂須賀家政関係文書の分析 【6週】 5. まとめと総括 【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポートで評価する											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献を読むほか、関連する学術文献を各自で収集して読む。また、自身の課題を設定して史料を収集・分析し、レポートを作成する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学3

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 笹川 尚紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代氏族の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>ヤマト王権の形成をめぐることは、古代氏族の役割を軽視することができない。なかでも、ヤマト王権の最高執政官たる大臣と大連を輩出した蘇我臣と物部連の動向を跡づけることは、その点を明らかにするうえで、すこぶる重要であるといえる。よって、本講義においては、両氏にかかわる事柄の分析を中心にして、ヤマト王権の発展過程について、私見を開陳していく。</p> <p>また、そういう課題を検討するに際しては、『古事記』と『日本書紀』を用いる必要が存する。けれども、それらの内容に対しては、事実に基づくものなのか、史料批判が不可欠になるといえる。このような点をはっきりさせるために、両書の成立や性格などについても、とかく考察を加えていく所存である。</p>											
【到達目標】											
日本古代史に関する基本的事項と研究方法を深く理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 『古事記』と『日本書紀』(1)</p> <p>第3回 『古事記』と『日本書紀』(2)</p> <p>第4回 『日本書紀』の伝来と諸写本</p> <p>第5回 天皇の実在性</p> <p>第6回 氏と姓</p> <p>第7回 饒速日命・伊香色雄</p> <p>第8回 建内宿禰</p> <p>第9回 物部連目</p> <p>第10回 物部連麿鹿火</p> <p>第11回 蘇我臣の発祥地</p> <p>第12回 蘇我臣稲目</p> <p>第13回 物部連守屋</p> <p>第14回 蘇我臣馬子</p> <p>第15回 蘇我臣蝦夷・入鹿</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末レポートの内容によって評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点（100点満点）の絶対評価で評点する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献や配付資料に基づき、講義内容の理解を深める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学4

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岩城 卓二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		17世紀近世社会論									
【授業の概要・目的】											
17世紀とはどのような社会であったのか。石見銀山を支配するために配置された幕領を対象に、中世社会が変容しながら近世社会が形成されていく過程について、幕領支配の変遷を中心に考えていく。授業は講義形式であるが、史料を読み込みという歴史学にとって必要な基礎的力を習得することを目的とする。そのため受講生は事前に配布する史料を読み込んで授業に臨むという姿勢が必要である。											
【到達目標】											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
1, 石見銀山と銀山附幕領の成立(2回) 2, 奉行による支配(3回) 3, 代官による支配(3回) 4, 地役人(3回) 5, 山野河海を支配する(3回) 6, まとめと総括(1回) *なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。											
【履修要件】											
一定の漢文読解力を必要とする。											
【成績評価の方法・観点】											
授業の理解度を確かめる期末レポート											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業中に指示する史料の精読。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学5

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岩城 卓二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鉱山社会論									
【授業の概要・目的】											
日本近世において銀銅は日本の主要な輸出品であり、全国各地で銀山・銅山が開発された。銀山・銅山には採鉱・精錬を担う多くの人々が暮らしていたが、史料の制約から鉱山社会の実態はよくわかっていない。そこで本講義では、石見銀山附幕領内に所在した笹ヶ谷銅山を事例に、鉱山ではどのような社会が形成されていたのかについて講義し、日本の近世社会の諸相について考えていく。授業は事前に配布した史料を読み込みながら進めていく。											
【到達目標】											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
1 , 日本近世の鉱山(2回) 2 , 石見国笹ヶ谷銅山の開発(2回) 3 , 銅山師身分の制立(2回) 4 , 山内労働者(4回) 5 , 山内の改革(4回) 6 , まとめ(1回) * なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業の理解度を確かめる期末レポート											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業中指示する文献の精読、史料解釈											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学6

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 福家 崇洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		歴史研究事始									
【授業の概要・目的】											
<p>概要：講師の専門（近現代日本の社会運動史、社会思想史、史学史）に基づく、歴史研究の導入教育。</p> <p>目的：講師が歴史研究のプロセスを受講者に開示する。歴史研究における問題意識・目的・方法などを受講者が批判的に検討することで、自身の歴史研究や社会認識の糧にしてもらうことが本講義の目的である。なお、本講義は必ずしも他分野の歴史研究の参考となるわけではないことをご理解いただきたい。</p>											
【到達目標】											
歴史研究の意義を理解し、その目的・方法を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 テーマ設定、先行研究の整理と分析 3 施設見学と資料調査1 4 施設見学と資料調査2 5 施設見学と資料調査3 6 施設見学と資料調査4 7 その他の資料調査（古書、聴き取り） 8 収集資料の整理・保存と研究活用 9 資料の読解1 10 資料の読解2 11 資料の読解3 12 歴史を叙述する1 13 歴史を叙述する2 14 歴史を叙述する3 15 まとめ <p>なお、COVID19の状況や授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。</p>											
【履修要件】											
<p>必須ではないが、歴史研究に従事する意志があればありがたい。受講者の人数によっては別途選抜につき検討する。</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート（40点）と期末レポート（40点）、平常点（20点）等により総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学7

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学研究科 教授 市 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジアのなかの日本古代宮都									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代史の史料は限られているが、発掘調査を通じて、新たな知見が次々と明らかにされつつある。本講義では、既存の文献史料に加え、新たな考古資料も積極的に活用しながら、飛鳥時代（6世紀末～8世紀初頭）を中心に宮都の展開過程を跡づけ、日本古代国家の形成過程に迫ってみたい。その際、日本古代史を一国史にとどめるのではなく、東アジア史の文脈のなかに位置づけるように注意したい。</p>											
【到達目標】											
<p>資料の取り扱い方法を習得する。日本古代史の主要な論点を理解する。東アジア史の文脈で、日本古代史像をイメージできるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進める予定である。ただし、受講者の理解状況に応じて詳しく説明したり、新たな知見を紹介することなどもあるため、各テーマの内容などについては柔軟に考えることにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、イントロダクション 古代宮都の概観 2、遣隋使の派遣と小墾田宮 3、飛鳥岡本宮から百濟宮へ 4、7世紀中葉の東アジア情勢と百濟大寺 5、難波諸宮の展開 6、大化改新と難波宮 7、白村江の戦い前後の王宮 8、飛鳥浄御原宮と関連施設 9、複都構想と東アジアの都城 10、藤原京の誕生 11、大宝律令の施行と藤原京 12、平城京遷都の歴史的意義 13、日唐王宮の空間構成 14、門からみた日本古代王宮の特質・展開 15、授業全体のまとめ 											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末のレポート（70％）と授業中に実施予定の小レポート（30％）で総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する
プリントを配布して授業をおこなう。

[参考書等]

（参考書）

川尻秋生他 『シリーズ古代史をひらく 古代の都』（岩波書店，2019年）ISBN:9784000284967
市大樹 『飛鳥の木簡』（中央公論新社，2012年）ISBN:9784121021687C1221
必要に応じて授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で言及した参考文献を図書館などで見てみる。飛鳥などの遺跡を訪れてみる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学8

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合博物館 教授 岩崎 奈緒子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世後期の対外認識 10									
[授業の概要・目的]											
司馬江漢の著述を素材として、江漢の天文学と世界認識の特質を考究する。											
[到達目標]											
近世後期の世界認識の特質を学び、近代への移行を内在的に考察できる視角を得る。											
[授業計画と内容]											
以下の各項目について講述する。各項目には、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．研究史と本講義の視座【2週】 2．司馬江漢について【2週】 「独笑妄言」・「春波楼筆記」から 3．司馬江漢の天文学 「刻白爾天文図解」【2週】 「地転儀略図解」「地転儀示蒙」【3週】 4．司馬江漢の地理学 輿地略説【2週】 地球全図略説【3週】 5．フィードバック【1週】 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
学期末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に予習・復習すべきポイントを指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学9

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上島 享			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世仏教の展開と転換									
【授業の概要・目的】											
<p>【授業の概要】 日本中世史研究を歩みを振り返り、研究の現状と課題を確認し、中世という時代全般を概観する。その上で、中世仏教の社会的浸透とその転換について考察する。</p> <p>【授業の目的】 講義の目的は、自説を展開できる論文が書ける能力を受講生が獲得することである。そのために必要な批判力や論理構成力の涵養を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>授業で示された具体的な研究事例を学び、その内容を批判的に検証することで、修士論文執筆に必要な能力が修得できるようになる。つまり、歴史学の基礎をなす実証の方法、先行学説に対する向き合い方、自説を論理的に構成する能力などを獲得することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 日本中世史研究の歩み 第2回 日本中世史研究の歩み 第3回 時期区分論の現状と課題 第4回 中世600年を考える 第5回 中世社会の転換 蒙古襲来の歴史的意義 第6回 僧侶の活動と権門寺院 勧進と聖 第7回 僧侶の活動と権門寺院 修正会・田遊び・勧農 第8回 平泉の寺院と法会 第9回 中世熊野信仰の形成 第10回 金峯山信仰史の研究 第11回 蒙古襲来と神仏 第12回 蒙古襲来と神仏 第13回 権門体制の弛緩 六勝寺の解体と本末関係の衰退 第14回 権門体制の弛緩 祈祷と寺社 第15回 中世仏教の転換</p> <p>自身の研究の進捗状況により、上記の内容を変更することがある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末のレポート(50%)と授業のさいに実施予定の小レポート(50%)。 レポートにおいて、自らの見解を論理的あるいは実証的に論じているのかを評価基</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

準とする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

上島 享 『日本中世社会の形成と王権』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0635-4
その他については、適宜、授業で指示をする。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・事前に配布する史資料を読んだ上で、授業にのぞむこと。
- ・授業終了後は、授業内容を批判的に検討すること。

(その他(オフィスアワー等))

- ・質問などがあれば、メールにて連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学10

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学 史料編纂所 准教授 藤原 重雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世絵画史料論									
【授業の概要・目的】											
<p>前近代日本史研究の基礎に、文書・記録等の文献史料の読解があることは疑いない。一方、過去の人々の営み全体を対象とする歴史学にとって、文献の精緻な読み解きそれ自体は方法であり目的とはいえ、多様な素材を対象に取り込んで、豊かな歴史の諸相を照らし出すこともまた課題である。</p> <p>本講義では、主に12～16世紀の絵画作品から異なるジャンルの事例を取り上げ、絵画としての特性を踏まえた上で、歴史史料としてどのような分析が可能なのか、これまでの研究の蓄積を紹介しながら、新しい課題にも取り組みたい。日本中世史に関する専門的な講義であるが、視覚的な情報の領域・比重が高まる現代社会においても共通する論点のあることを意識する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・日本中世史研究における史料論の現状を理解する。 ・史料批判を基礎とした歴史学の方法について理解する。 ・視覚的イメージを批判的に捉える態度を習得する。 ・図書館・博物館・美術館およびデジタル的な学術環境について、現状を把握し将来像を展望する。 											
【授業計画と内容】											
<p>下記のジャンルから、実際に展示で作品を見る機会がある、現地を各自で見学することが可能な事例などを優先して扱う予定。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2・3回 絵巻物と『常民生活絵引』 第4・5回 肖像画 第6・7回 宮曼荼羅・荘園絵図 第8・9回 掛幅縁起絵と説話・地理 第10・11回 参詣曼荼羅 第12・13回 洛中洛外図屏風 第14回 好古図譜『聆涛閣集古帖』とデジタル公開 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

・レポート。到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

教科書は使用しない。講義にあたってはプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

黒田日出男 『増補 姿としぐさの中世史』 (平凡社ライブラリー、2002年) ISBN:4582764452 (「画像の歴史学」を収録)

石上英一編 『日本の時代史 30』 (吉川弘文館、2004年) ISBN:4642008306 (藤原「中世絵画と歴史学」を収録)

藤原重雄 『史料としての猫絵』 (山川出版社、2014年) ISBN:9784634546912

ピーター・バーク (諸川春樹訳) 『時代の目撃者 資料としての視覚イメージを利用した歴史研究』 (中央公論美術出版、2007年) ISBN:9784805505489

吉田ゆり子・八尾師誠・千葉敏之編 『画像史料論 世界史の読み方』 (東京外国語大学出版会、2014年) ISBN:9784904575321

個別には講義にて紹介する。

(関連URL)

<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fujiwara/lecture.html>(過去の講義の参考文献などを掲載しています。)

[授業外学修(予習・復習)等]

・短期間の集中講義ですので、参考書の上2件に事前に目を通して頂くと、理解がしやすいかと思います。

・キャンパスメンバーズの権利を行使して、京都国立博物館・奈良国立博物館で平常展(絵画は定期的に展示替えをしており、観覧無料です)を見る習慣を身につけて下さい。

(その他(オフィスアワー等))

集中講義のため、オフィスアワーは特に設けないので、質問等は各回の授業後に行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学11

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪経済大学 経済学部 准教授 内山 一幸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		武士の近代									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、担当者がこれまで執筆した論文を素材に、武士たちが近代日本においてどのような存在であったのかを考えていく。講義において毎回論文1篇ずつ解説を行う。論文執筆の際に、着眼点はどこにあったのか、具体的にどのような作業を行ったのか、論文発表時点での学界の反応はどうであったのか、単著にまとめる際にどのような修正を行ったのか、現在、その論文を自分自身がどう評価しているか、といった内容を話す。</p>											
【到達目標】											
<p>上記の講義内容を通じて、「武士の近代」というテーマを理解することに加えて、論文を書くための能力も養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 講義担当者の研究の概要 2 「旧藩主の家政と家令・家扶」(『日本歴史』699号、2006年) 3 「旧藩主家における意思決定と家憲」(『九州史学』146号、2006年) 4 「明治前期における旧藩主家と地域社会」(『日本歴史』723号、2008年) 5 「明治前期における大名華族の意識と行動」(『日本史研究』576号、2010年) 6 「明治十年代における旧藩主家と土族銀行」(『史学雑誌』124-1、2015年) 7 『明治期の旧藩主家と社会』(吉川弘文館、2015年)第2部第1章 8 同上、第3部第1章 9 同上、第3部第3章 10 「東京の中の旧藩」(『年報近現代史研究』8号、2016年) 11～15については、上記の講義での反応を見ながら、さらに論文の解説を行うのか、近年の研究動向の説明をするか判断する。 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点 40%</p> <p>期末レポート 60%</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
論文のコピーおよびレジュメを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)
内山 一幸 『明治期の旧藩主家と社会』 (吉川弘文館、2015年)

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に論文のコピーないしPDFファイルを準備するが、講義で内容の紹介も行うため、事前に読まなくても授業を理解することもできなくはない。しかし、精読の上、講義に臨んだ方が理解度は高まると思われる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学12

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世の荘園と村落									
【授業の概要・目的】											
今期は、近江国の荘園と村落を題材に、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本中世の荘園と村落に関する認識を深めるとともに、その研究方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。											
【授業計画と内容】											
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。											
第1回 荘園研究と現況調査											
第2回 荘園類型と立荘論											
第3回 近江国木津荘の引田帳と検注帳											
第4回 近江国木津荘域の条里プラン											
第5回 応永年間の木津荘と地殻変動											
第6回 古代の港木津と北陸道											
第7回 「記憶」の「記録」を作る(1)											
第8回 「記憶」の「記録」を作る(2)											
第9回 景観復元の試み(1)											
第10回 景観復元の試み(2)											
第11回 景観復元の試み(3)											
第12回 景観復元の試み(4)											
第13回 比叡荘・高島荘・木津荘											
第14回 近江国高島郡の荘園公領											
第15回 学習到達度の評価											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に到達目標に即したレポート課題を提示し、その内容で成績評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも必ず目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学13

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鎌倉幕府政治史研究の可能性									
【授業の概要・目的】											
今期は、鎌倉幕府政治史を題材に、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
鎌倉幕府の政治史に関する認識を深めるとともに、歴史の転換期としての当該期の意義とその分析方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。											
【授業計画と内容】											
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。											
第1回 中世都市鎌倉の黎明 第2回 『吾妻鏡』をいかに扱うか 第3回 「古文書」をいかに扱うか 第4回 「系図」をいかに扱うか 第5回 「得宗専制論」の明と暗 第6回 「公権委譲論」の真と偽 第7回 守護研究の現在(1) 第8回 守護研究の現在(2) 第9回 守護研究の現在(3) 第10回 守護研究の現在(4) 第11回 室町幕府研究への影響 第12回 鎌倉幕府末期政治史研究(1) 第13回 鎌倉幕府末期政治史研究(2) 第14回 鎌倉幕府末期政治史研究(3) 第15回 学習到達度の評価											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に到達目標に即したレポート課題を提示し、その内容で成績評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

前もってプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学14

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 吉江 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究 東大寺別当の成立									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、東大寺別当の成立に焦点をあてながら、宮廷社会の変質と寺院組織の変容との関係性について検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、東大寺別当の成立に焦点をあてながら、宮廷社会の変質と寺院組織の変容との関係性について検討する。まずは平安時代前期に登場する寺院別当制を概観し、寺院組織の変容に関する全体像を把握する。次いで、東大寺別当が成立する以前の東大寺の組織運営を整理し、それを踏まえて東大寺別当の成立時期とその意義について考察する。最後に、平安時代の東大寺が果たした役割を、宮廷社会の様相と関連づけながら検討する。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。											
イントロダクション（第1回）											
1 問題の所在 寺院別当制の成立意義（第2回～第4回）											
2 奈良時代後半期における東大寺（第5回～第7回）											
3 造東大寺司の停廃と東大寺別当の成立（第8回～第10回）											
4 平安時代の東大寺と宮廷社会（第11回～第13回）											
総括（第14回）											
《期末試験》											
フィードバック（第15回）											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【成績評価の方法・観点】

授業時間内で実施する小テスト（10点×2回）と学期末に課す期末レポート（80点）の合計素点（100点満点）で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学15

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 吉江 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究 四天王寺縁起にみる聖徳太子信仰									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、四天王寺縁起の記述内容に焦点をあてながら、宮廷社会における聖徳太子信仰の展開について検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、四天王寺縁起の記述内容に焦点をあてながら、宮廷社会における聖徳太子信仰の展開について検討する。まずは四天王寺縁起の出現と伝来に関する先行研究を概観し、問題意識を明確にする。次いで、四天王寺縁起の成立時期と構成を考察し、特に資財帳部分に関して、その記述内容を検討する。最後に、聖徳太子信仰の展開と宮廷社会との関係性を、四天王寺や法隆寺など聖徳太子関連寺院の動向から考える。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。											
イントロダクション（第1回）											
1 問題の所在 四天王寺縁起の出現と伝来（第2回～第4回）											
2 四天王寺縁起の成立時期と構成（第5回～第7回）											
3 資財帳としての四天王寺縁起（第8回～第10回）											
4 聖徳太子信仰の展開と宮廷社会（第11回～第13回）											
総括（第14回）											
《期末試験》											
フィードバック（第15回）											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時間内で実施する小テスト(10点×2回)と学期末に課す期末レポート(80点)の合計素点(100点満点)で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学16

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都先端科学大学 人文学部 教授 鍛治 宏介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		江戸時代の京都									
【授業の概要・目的】											
江戸時代は文字通り、「江戸」が政治、経済、文化の中心として栄えた時代ですが、京都は、天皇の住む都、各藩が呉服を購入するため藩邸をおいた産業都市、寺の本山が集まる宗教都市、学者たちが集まる学術都市、芸術活動や出版業が盛んな文化都市、観光客が多く集う観光都市として栄えていました。この授業では、江戸時代における京都の歴史を、丸竹夷の通り名歌、水戸黄門、生類憐れみ令、天皇陵、遊所祇園、さまざまなトピックをとりあげながらみていきます。											
【到達目標】											
講義を通じて、江戸時代の特色を把握すること、多角的に収集した史料を読解して時代を読み解いていく歴史学の手法を理解すること、また毎回の講義で紹介する史料のなかに広がる豊かな世界を知ることが講義の主たる目標とします。またインターネットや図書館や博物館で、史料を探す手法も身につけてください。専攻とする分野が異なる人、興味のあるテーマが異なる人も、本講義を自らの研究の刺激として、自らの研究に取り組んでください。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の内容について講義します。ただし講義の進捗状況等により、順序や講義回数を変更することがあります。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス この授業の概要とレポートについて 2 京都通り名歌の歴史 3 生類憐れみの令と京都の捨て子 4 水戸黄門と京都のお公家さん 5 重要文化財「大日本史編纂記録」を分解する 6 江戸時代の武士と文化都市京都 7 うんちの歴史 8 朝廷官位と年齢詐称 9 天皇陵の管理と修復 10 蚕の社と西陣 11 京都で暮らす女性たち 12 祇園遊所と一生不通養子娘 13 祇園遊所と幕府の政策 14 祇園遊所で遊ぶ人々 15 幕末京都と新選組 											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の発言・コメント紙回答30% レポート70%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

学期末のレポートが、一定以上の水準のものになるように、各自、興味をもった内容について、図書館やネットで、学術書や論文、史料を読んで、準備をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

毎回の講義冒頭で前回の授業にだされたコメント用紙について20分ほどかけて回答を行う。面白い質問がでた場合、講義予定を変更して、その回答で一回分を費やす場合もある。毎回、振り返り20分、講義1時間、コメント記入10分を目安として授業を行う。なお質問のある方はこちらにお願いします(kaji.kosuke@kuas.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学17

科目ナンバリング		G-LET23 66631 LJ38									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀大学 教育学部 教授 宇佐見 隆之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		在地に残された史料からみる中世の社会									
【授業の概要・目的】											
<p>日本史学の記述が史資料によって形作られていることへの理解を目指す。 対面授業を行う予定であるが、感染症の状況によってオンライン講義になる可能性があるので留意すること。</p> <p>日本に古くから残されている古文書や古記録。その多くは正倉院文書をはじめとして寺社や公家などに残されたものである。しかし中世に入ると、村や町の在地に残される史料が現れる。それらには、寺社文書、公家文書にはない民衆の生活が記されている。本講義ではこのような在地の史料からわかる社会を描き出すことをめざす。中世社会の根底にある荘園を知るためにも在地の史料を知る必要が生じる。またこれらの史料は次の時代近世へのつながりを知ることが出来る題材ともなる。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 歴史の方法論や史料解釈の方法を学び、応用することができる。 2 文献史料を用いた考え方を学び、身につけることができる。 3 考察したことを適切にまとめて、論理的に表現することができる。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1～2、ガイダンス：日本史学と古文書 文献史の方法と史料 3～4、荘園制と在地文書 秦文書と若狭国大田文 5～7 近江国に残る在地文書 大嶋奥津嶋神社文書、菅浦文書 8～9 在地文書と産業 今堀日吉神社文書と商業、木地師文書 10～12 中世経済史は成り立つのか 荘園制と商工業、技術、 13～14 中世から近世へ 史料の残り方と連続性、敦賀と小浜 15 レポートとフィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

学期末レポートを想定している（8割程度）が、受講人数によっては試験になる場合がある（2回目頃には確定する）。残り2割は通常時の小レポートなどによる。

[教科書]

使用しない
プリント配布予定

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
必要な文献は授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

必要な先行研究等は授業で紹介するので、予習・復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

初回授業時にメールアドレスを示すので、それで連絡すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学18

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		秦史研究序説									
【授業の概要・目的】											
<p>1970年代以降の秦簡の出土により、前3世紀後半については、従来とは比較を絶する緻密な秦史の実態が解明されつつある。対するに、前3世紀半ば以前の秦史に関する認識は、『史記』になお最も大きく依存している。本講義では、戦国後期～前漢前期における秦史認識と比較することで、『史記』の秦史認識の特徴ないし独自性を確認する。</p>											
【到達目標】											
中国古代史研究の最新の知見、および中国古代文献の批判的分析の方法論を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>以下の項目を逐次論ずる。</p> <p>第1回 序論 第2回 秦史記述の疎密 第3回～第4回 秦の起源 第5回 秦の建国 第6回 穆公 第7回 秦＝戎狄説 第8回 献公 第9回～第10回 孝公～莊襄王 第11回～第14回 統一秦 第15回 結論</p> <p>* フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

講義資料は担当者が準備する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学19

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		孟子とその時代									
[授業の概要・目的]											
孟子の経歴については、武内義雄・錢穆の先行研究があるが、年代学・歴史文献学的に問題があり、とりわけ先秦時代の歴史的事実および『孟子』の編纂上の特徴に対する理解が決定的に不十分であった。このような批判的視点に立ちつつ、戦国中期までの歴史的推移を概観し、『孟子』を解析することによって、中国専制国家形成過程としての先秦史に孟子を位置づける。											
[到達目標]											
先秦史研究の最新の知見、および中国古代文献の批判的分析の方法論を習得する。											
[授業計画と内容]											
以下の項目を逐次論ずる。 第1回 序論 第2回～第5回 春秋中期～戦国中期の歴史的推移 第6回～第7回 孟子の歴史認識 第8回 『孟子』の定量的分析 第9回～第10回 『孟子』各篇の章次 第11回～第14回 孟子の経歴 第15回 結論 * フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート(30点)と期末レポート(70点)に基づき総合的に評価する。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に別途指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学20

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世世界におけるカトリック教会の位相									
【授業の概要・目的】											
<p>1 7世紀のフランドルのイエズス会士、Cornelius HazartのKerckelycke historie van de gheheele werelt 『世界教会史』第一巻を読むことで、近世世界におけるカトリック教会の位相を探る。全四巻からなる本書のうち、第一巻にはヨーロッパ外の各地域におけるカトリックの布教状況が取り上げられる。著者はプロテスタントに対して polemical な著作を多く残しており、本書執筆の意図もそこにあるが、ここではそうした宗派的文脈よりも、イエズス会そしてカトリック教会の世界布教の構図を浮かび上がらせる材料として本書を読み解きたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1 , イエズス会のグローバルな活動を通じて近世世界の輪郭が把握できる 2 , 各地間の布教状況の差異から、比較史的考察が可能になる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 , 著者について 2 , 日本 (1) オランダ人の記録 3 , 日本 (2) 布教 4 , 日本 (3) 迫害 5 , 中国 (1) 開教 6 , 中国 (2) 発展 7 , ムガル 8 , 南インド 9 , ペルー 10 , メキシコ 11 , ブラジル 12 , フロリダ、カナダ 13 , パラグアイ、マラニャン 14 , アダム・シャルル 15 , フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによる評価。レポートはこの授業で紹介する史料ないし研究にもとづいて作成してもらう。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で指示した参考文献を読むことで、授業内容を確認すると同時に疑問点を見つけ出し、次回の受講に備えること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学21

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世の世界におけるオランダの活動									
【授業の概要・目的】											
<p>オランダの両インド会社や個人の活動を通じて、17世紀の世界を俯瞰する。 両インド会社のうち、東インド会社のほうが注目されがちだが（日本では特にそうである）、旧会社は半世紀しか存続しなかった西インド会社の活動にも近年注目が集まりつつある。 本講義では、時系列に沿って、大西洋世界も含めた世界各地におけるオランダ人あるいは会社の傘下で活動した人々の活動を追跡し、とくに彼らの世界認識を探ることで、近世世界の歴史的特質の一端を捉えることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>1 , 17世紀のオランダの世界史的意義を把握できる 2 , 蘭学の源流について知ることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 , イントロダクション 2 , 蘭学の世界 3 , 1612年 イスタンブル 4 , 1621年 アグラ 5 , 1623年 イスファハーン 6 , 1630年代 平戸 7 , 1634年 アユタヤ 8 , 1635年 キュラソー 9 , 1637年 レシフェ 10、1646年 ニュー・アムステルダム 11、1654年 アンボン島 12 , 1656年 北京 13 , 1664年 モスクワ 14 , 1668年 ダッペル 『アフリカ』 15 , フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読むことによって、問題点を確認するとともに次週の授業に備える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学22

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		帝国日本のスポーツ									
【授業の概要・目的】											
<p>私はかつて『帝国日本とスポーツ』（2012年）を書いて、内地中心の日本スポーツ史を批判した。その後、朝鮮や台湾のスポーツに関する良質の研究が出てきたものの、それらはなお植民地と宗主国の二者関係に視野が限られ、帝国全体を見渡すものとはなっていない。帝国全体を描くうえでネックとなっているのが満洲のスポーツ史であり、その研究はいま着実に進みつつある。その具体的な成果は後期の授業で紹介することにし、前期は日本内地、朝鮮、台湾、満洲などでスポーツが発展し、帝国に統合される過程、スポーツを通じた「文明化の使命」が日中戦争期の占領統治へと引き継がれていく過程、そしてできれば戦後東アジアにもたらした遺産（レガシー）を概観する。</p>											
【到達目標】											
<p>スポーツというテーマはまだ歴史学ではまっとうな扱いを受けていないが、東京オリンピックや北京冬季オリンピックの状況が示すように、近現代社会を考えるうえで重要なテーマとなるはずである。そんなスポーツ史の魅力と可能性を伝えたい。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>スポーツというテーマはまだ歴史学ではまっとうな扱いを受けていないが、東京オリンピックや北京冬季オリンピックの状況が示すように、近現代社会を考えるうえで重要なテーマとなるはずである。そんなスポーツ史の魅力と可能性を伝えたい。</p> <p>下記の内容について論じる。準備の都合や時々状況により内容は多少出入りすることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．日本（内地）のスポーツ（4週） 2．朝鮮のスポーツ（2週） 3．台湾のスポーツ（2週） 4．満洲のスポーツ（2週） 5．帝国日本のスポーツ（3週） 6．帝国日本の遺産（2週） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業のコメントと小レポート（60点）、学期末レポート（40点）											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

高嶋航 『帝国日本とスポーツ』 (塙書房) ISBN:9784827312539

高嶋航 『スポーツからみる東アジア史』 (岩波書店, 2021) ISBN:978-4-00-431906-1

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考書や論文に目を通すこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学23

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		満洲とスポーツ									
【授業の概要・目的】											
<p>満洲（現在の中国東北地区）は、これまでスポーツ研究では看過されてきた地域である。しかし、満洲は日本を考えるうえでも、中国を考えるうえでも、さらには東アジアを考えるうえでも重要な地域である。なぜならそこでは、日本（朝鮮を含む）と中国が併存し、対立し、混交するなかでスポーツが発達してきたからである。</p> <p>本講義では、日本、中国、朝鮮の状況を踏まえつつ、戦前および戦時中の満洲におけるスポーツの概要と、個別の興味深い問題について論じる。</p>											
【到達目標】											
<p>東アジアでは、北京（2008）、平昌（2018）、東京（2020）、北京（2022）とオリンピックが立て続けに開かれている。スポーツの世界で東アジアのプレゼンスが高まるなかで、東アジアのスポーツの歴史を理解することは、スポーツを通じてよりよい東アジアを築き上げる基礎となる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 満洲におけるスポーツの始まり 2. 満鉄とスポーツ 3. 満洲と野球 4. 満洲と甲子園 5. インドアベースボールと東アジア 6. 大連YMCAと「文明化の使命」 7. 満洲スポーツの父、岡部平太 8. 満洲とスケート 9. 満洲の軍隊とスポーツ 10. 満洲の中国人スポーツ 11. 満洲における日中スポーツ交流 12. 満洲と明治神宮大会 13. 満洲国とスポーツ 14. 満洲国のナショナルチーム 15. フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業のコメントと小テスト（60点）、期末レポート（40点）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

高嶋航 『帝国日本とスポーツ』（塙書房,2012）ISBN:4827312532

高嶋航 『国家とスポーツ：岡部平太』（KADOKAWA,2020）ISBN:4044004943

高嶋航、金誠 『帝国日本と越境するアスリート』（塙書房,2020）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する参考書、論文に目を通しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学24

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 矢木 毅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮史詳説(近世篇3)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮時代後期(17~18世紀)の政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国・日本)の歴史と関連づけながら朝鮮の歴史を理解することを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1講 朝鮮時代史とその史料 第2講 礼訟の時代 第3講 己亥・甲寅の礼訟 第4講 庚申の獄 第5講 老論と少論 第6講 唐米の輸入 第7講 荒唐船の出没 第8講 常平通寶 第9講 新銀問題と対日外交 第10講 正徳度通信使 第11講 定界碑 第12講 萬東廟と大報壇 第13講 家禮源流と斯文處分 第14講 丁酉獨對 第15講 まとめ(史料講読)											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期中に2回、レポート課題(各50点)を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は PandA を経由して行う。											
【教科書】											
使用しない 講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社)ISBN:9784634462137
姜在彦『歴史物語 朝鮮半島』(朝日新聞出版)ISBN:9784022599063
矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』(塙書房)ISBN:9784827331110
矢木毅『韓国の世界遺産 宗廟』(臨川書店)ISBN:9784653043713

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学25

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 矢木 毅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮史詳説(近世篇4)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮時代後期(17~18世紀)の政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国・日本)の歴史と関連づけながら朝鮮の歴史を理解することを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1講 辛壬士禍 第2講 蕩平策 第3講 戊申・李麟佐の乱 第4講 銓郎権の撤廃 第5講 常平通寶の増鑄 第6講 均役法 第7講 乙亥・尹志の獄 第8講 壬午禍變 第9講 外戚の争い 第10講 奎章閣 第11講 華城の造営 第12講 辛亥通共 第13講 正祖朝の學藝 第14講 五晦筵教 第15講 まとめ(史料講読)											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期中に2回、レポート課題(各50点)を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は PandA を経由して行う。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信する。

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社) ISBN:9784634462137

姜在彦『歴史物語 朝鮮半島』(朝日新聞出版) ISBN:9784022599063

矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』(塙書房) ISBN:9784827331110

矢木毅『韓国の世界遺産 宗廟』(臨川書店) ISBN:9784653043713

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学26

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 基盤教育機構 教授				承 志
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		マンジュ語『内国史院档』の研究										
[授業の概要・目的]												
マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と講読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業では史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 												
[授業計画と内容]												
第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点												
[教科書]												
使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学修(予習・復習)等]												
授業前の予習を必須とする。												
(その他(オフィスアワー等))												
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

歴史文化学27

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 基盤教育機構 教授				承 志
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		マンジュ語『内国史院档』の研究										
[授業の概要・目的]												
マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と購読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。前期の3-14回の授業ではマンジュ語入門と基礎文法、史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 												
[授業計画と内容]												
第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点												
[教科書]												
使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学修(予習・復習)等]												
授業前の予習を必須とする。												
(その他(オフィスアワー等))												
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

歴史文化学28

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 宮宅 潔			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古代制度史と出土文字史料									
[授業の概要・目的]											
近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。											
[到達目標]											
新出史料に関する知識を身につけ、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国簡牘史料の発見史 3. 楚簡の概観 4. 秦簡の概観 5. 墓葬出土漢簡の概観 6. 辺境出土漢簡の概観 											
初回のガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。											
[履修要件]											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末のレポート(50点)に平常点(授業中の質問・発言、小テスト 50点)を加味して評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学29

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 宮宅 潔			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		簡牘より見た始皇帝の時代									
[授業の概要・目的]											
近年公表されている秦代の出土文字史料（岳麓書院所蔵簡・里耶秦簡など）を活用しつつ、始皇帝の時代について講義する。始皇帝個人の一生を紹介したうえで、中国全土を支配することになった秦王朝が如何なる問題に直面し、そのためにどのような制度が整えられていたのかを分析する。特に秦による征服と統治の展開を、制度面から跡づけていく。こうした考察を通じて、中国古代の専制国家の姿について、理解を深めることを目指す。											
[到達目標]											
中国古代史の諸制度について、基本的な知識を身につけたうえで、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
[授業計画と内容]											
1．ガイダンス 2．始皇帝の人生 3．統一戦争の諸相 4．多元世界の統一 5．占領統治の実態											
初回のガイダンスの後、各単元を3～4回に分けて講義する。											
[履修要件]											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポート（50点）に平常点（授業内での質問・発言、小テスト 50点）を加味して評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学30

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古松 崇志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国石刻史料の研究									
【授業の概要・目的】											
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
【到達目標】											
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス（1回） 2．石刻学・石刻研究史の概観（2～3回） 3．石刻史料へのアクセス（伝統的な石刻文献を含めた典籍文献、新出史料集、ウェブ上のデータベースなど）概観（2～3回） 4．石刻史料積読（7～9回） 5．まとめ（1回） <p>積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元（モンゴル帝国）時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。</p> <p>基本的に以上の予定にしたがって講義を進めるが、回数など変更の可能性があることに留意されたい。</p>											
【履修要件】											
前期・後期つづけて履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
【教科書】											
積読史料はプリントなどを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

積読する史料を指定したあとは、受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学31

科目ナンバリング		G-LET24 66731 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古松 崇志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国石刻史料の研究									
[授業の概要・目的]											
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
[到達目標]											
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
[授業計画と内容]											
<p>1．ガイダンス（1回）</p> <p>2．石刻史料積読（13回）</p> <p>3．まとめ（1回）</p> <p>積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元（モンゴル帝国）時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。</p>											
[履修要件]											
前期・後期つづけて履修することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
[教科書]											
積読史料はプリントなどを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
積読する史料は受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学32

科目ナンバリング		G-LET24 76741 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学（演習Ⅰ） Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学33

科目ナンバリング		G-LET24 76741 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学（演習Ⅰ） Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
【授業の概要・目的】											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
【到達目標】											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。											
【教科書】											
教材は担当教員が準備する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学34

科目ナンバリング		G-LET24 76743 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		茅元儀『石民四十集』の書簡を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>明末に『武備志』という浩瀚な兵書を著したことで知られる茅元儀の文集『石民四十集』に収録される書簡を主に読む。今年度は天啓七年(1627)から崇禎四年(1631)までの書簡と上奏を読む。新しい皇帝が即位すると、彼も再浮上し、いったん失脚したものの、再び戦いの前線に立つことになる。しかし、それもつかの間に終わり、福建に流罪となる。彼の人生の中でもとりわけ起伏の激しい時期であり、明朝にとっても激動の時期であった。この授業では、彼の視点を通して崇禎初年の明朝国家のありようを眺めることも目的としている。</p>											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文テキストを読むことで、自力で句読する能力が身に付く。 2、書簡を歴史史料としてどのように読むべきかを知ることができる。 3、明人の政治・文化観を知ることができる。 											
[授業計画と内容]											
<p>進度については、受講生次第なので、確言できない。第1回目に、これまで五年間本書を読んできたことをもとにした解説を行い、新規受講者に予備知識を与える。 以下、2回目～14回目まで、毎回書簡を1本ないし2本を読む。 15回目 フィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
テキストはこちらから配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
前もってテキストを配布するので、十分に予習しておくこと。担当者には訳稿の提出を求める。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学35

科目ナンバリング		G-LET24 76743 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『明清档案』									
【授業の概要・目的】											
<p>中央研究院が刊行中の『明清档案』に収録されている清朝順治年間の文書を読み、中国制圧の過程を清朝サイドから見てゆく。明清の王朝交代は、日本では「華夷変態」として、またヨーロッパでも宣教師によってそのニュースが紹介されるなど、大事件として受けとめられていた。しかし、明末清初の動乱に関する歴史記述とそれを承けた研究は、満州人王朝の世界史的意義が強調されるようになった今日においてもなお「敗者」の側に片寄りすぎている。あらためてこの史料集を読むことで、勝者の視点から冷静に支配確立の過程を見てゆきたい。</p> <p>今年は順治六年(1649)の档案を読む。清朝支配の試行錯誤の過程を、文書を通じてたどってゆく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文に取り組むことで、自力で句読を行う能力を身につけることができる。 2、行政文書の形態に習熟できる。 3、清朝の中国征服史について理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 回 『明清档案』のテキストの性格を説明し、昨年読んだところについて言及しながら、順治元年～五年にわたる政治情勢について解説する。1コマにつき一、二本を読む予定。 2～14回でとりあげる予定の档案のテーマは以下のとおり。 15回 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 東洋史学(演習II)(2)へ続く -----											

東洋史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

1週間前に当番を決めて、文書1本ないしその一部を担当してもらうので、それについては責任をもって予習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学36

科目ナンバリング		G-LET24 76745 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学（演習Ⅲ） Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梁啓超『飲冰室合集』選読									
[授業の概要・目的]											
梁啓超の文集『飲冰室合集』から重要な文章を選読する。											
[到達目標]											
<p>近現代中国を考えるうえで、梁啓超を避けて通ることはできない。新しい文体によって、梁が切り拓いた新しい地平は、いまから見れば、近代以降の中国の政治、学術、社会の基盤を提供するものであった。</p> <p>梁啓超の文章を正確に理解することが第一の目標である。さらにすすんで、当時の知識人たちが抱えていた問題意識、世界観、日本の影響などを読み解くことが第二の目標である。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>初回はガイダンスで二回目から読み進める。梁啓超の著作集『飲冰室合集』から、適当な文章を選んで読んでいく。</p> <p>一回に二頁程度読む。履修者には、原文を現代中国音で読み、訳注を作成することを課す。</p> <p>一五回目はフィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントをコピーして配布する。											
[参考書等]											
<p>（参考書）</p> <p>梁啓超『新民説』（平凡社）ISBN:4000291874</p> <p>狭間直樹『梁啓超：東アジア文明史の転換』（岩波書店）ISBN:4000291874</p> <p>梁啓超『梁啓超文集』（岩波書店,2020）ISBN:4003323416</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
1週間前に当番を決めるので、少なくとも担当部分については責任をもって予習すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学37

科目ナンバリング		G-LET24 76745 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習III) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梁啓超『飲冰室合集』選読									
[授業の概要・目的]											
梁啓超の文集『飲冰室合集』から重要な文章を選読する。											
[到達目標]											
<p>近現代中国を考えるうえで、梁啓超を避けて通ることはできない。新しい文体によって、梁が切り拓いた新しい地平は、いまから見れば、近代以降の中国の政治、学術、社会の基盤を提供するものであった。</p> <p>梁啓超の文章を正確に理解することが第一の目標である。さらにすすんで、当時の知識人たちが抱えていた問題意識、世界観、日本の影響などを読み解くことが第二の目標である。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>初回はガイダンスで二回目から読み進める。梁啓超の著作集『飲冰室合集』から、適当な文章を選んで読んでいく。</p> <p>一回に二頁程度読む。履修者には、原文を現代中国音で読み、訳注を作成することを課す。</p> <p>一五回目はフィードバック。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
<p>(参考書)</p> <p>梁啓超『新民説』(平凡社) ISBN:4000291874</p> <p>狭間直樹『梁啓超：東アジア文明史の転換』(岩波書店) ISBN:4000291874</p> <p>梁啓超『梁啓超文集』(岩波書店,2020) ISBN:4003323416</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1週間前に当番を決めるので、少なくとも担当部分については責任をもって予習すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学38

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国古代史史料学									
[授業の概要・目的]											
銭穆『先秦諸子繫年』を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討する。											
[到達目標]											
中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。従来の戦国史(453-221BC)研究は、戦国後期の秦史に偏しており、戦国前・中期や六国については、資料の絶対量の乏しさに加えて、『史記』紀年の混乱が、歴史的推移の時系列的把握を困難にしてきた。1990年代以降の戦国楚簡の出現は、とりわけ思想史的研究を活発化させているが、かえって文献に対する研究の立ち後れを露呈させている。本演習では、銭穆『先秦諸子繫年』(香港中文大学、1956)を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討することによって、中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。</p> <p>第1回～第15回 『先秦諸子繫年』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、5頁程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学39

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国古代史史料学									
[授業の概要・目的]											
銭穆『先秦諸子繫年』を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討する。											
[到達目標]											
中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。											
[授業計画と内容]											
<p>前期の続き。従来の戦国史(453-221BC)研究は、戦国後期の秦史に偏しており、戦国前・中期や六国については、資料の絶対量の乏しさに加えて、『史記』紀年の混乱が、歴史的推移の時系列的把握を困難にしてきた。1990年代以降の戦国楚簡の出現は、とりわけ思想史的研究を活発化させているが、かえって文献に対する研究の立ち後れを露呈させている。本演習では、銭穆『先秦諸子繫年』(香港中文大学、1956)を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討することによって、中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。</p> <p>第1回～第15回 『先秦諸子繫年』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、5頁程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学40

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		The “ Global ” and the “ Local ” in Early Modern East Asia									
【授業の概要・目的】											
<p>プリンストン大学、復旦大学、そして東京大学の研究者たちが、グローバル・ヒストリーの可能性、東アジアにおけるグローバル・ヒストリーの研究・教育の意義を論じた論文集（2017年刊行）を読む。グローバル・ヒストリーは現在、世界的に盛行しているように見えるが、国によってその研究・教育が置かれている状況はさまざまである。本論文集を読むことで、日本におけるグローバル・ヒストリー研究を相対化することもできるかもしれない。ラインナップは次の通り。</p> <p>Zhaoguang Ge（葛兆光）：Is There Still Value in National History in the Trend towards Global History? Federico Marcon: Is a World History of Ideas Possible? Takahiro Nakajima（中島隆博）：Conditional Universality and World History in Modern Philosophy in East Asia Masashi Haneda（羽田正）：A New Global History and Regional Histories Benjamin A. Elman: A Jointly Regional-Global Approach to Rethinking Early Modern East Asian History Jin Sato（佐藤仁）：Internationalization from Within: 140 Years of Internationalization at the University of Tokyo Yunshen Gu(顧雲深): Innovation ;A Case Study of the Development of World History in the History Department of Fudan University Shaoxin Dong（董少新）：The Pros and Cons of the Construction of a Historical World Norihisa Baba（馬場紀寿）：From Sri Lanka to East Asia: A Short History of a Buddhist Scripture Tineke D’ Haeseleer: ‘ Nobody Changed Their Old Customs ’ ;Tang Views on the History of the World Xinlei Wang（王#37995磊）：The Korean Response to Xue Xuan ’ s Enshrinement in Ming Confucian Temples Yasushi Oki（大木康）：Literature of the Sixteenth and Seventeenth Century World Paize Keulemanns: Tales of an Open World: The Fall of the Ming Dynasty as Dutch Tragedy, Chinese Rumor, and Global News Zhenzhong Wang（王振忠）：The Regulation of Sailors in the Maritime Trade between Jiangnan and Nagasaki in Early Qing China Sheldon Garon: The Transnational History of Japanese Thrift</p>											
【到達目標】											
<p>1 , グローバル・ヒストリー研究の潮流を知ることができる。 2 , アメリカ・中国・日本の研究のスタンスの違いを知ることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1、趣旨説明 2 ~ 14回 受講生が上記の論文から各1本を選択して内容を紹介、批評する。</p>											
----- 東洋史学（演習）(2)へ続く -----											

東洋史学（演習）(2)

15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

担当者は論文紹介のレジюмеを作成すること。著者の他の仕事もリストアップしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

書物は購入する必要はありません。講師がコピーを提供します。
受講者はきわめて少ないと予想されるので、他専修からの参加を歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学41

科目ナンバリング		G-LET24 7M303 SJ38									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		外国語論文のレビュー									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、受講者が自らの関心にしたがって外国語(受講者にとっての外国語。英語でも、中国語でも、他の言語でもよい)の論文を選んで、その内容を紹介するとともに、その論文の学界における位置づけを参加者(講師も含む)にわかりやすいように行う。</p> <p>かつては、言語ごとに論文のスタイルはずいぶん異なっていた。現在でも、日本語、中国語、英語それぞれ特有の「癖」は存在するが、英語論文の影響により、かなり平準化してきている。外国語論文を読むことで、ある種のスタンダードを知るとともに、その問題点を個々の受講者が感じ取るようになれば、この授業の目的は達成される。</p>											
【到達目標】											
<p>1、外国語論文の「癖」を知ること、自国語論文のスタイルについて再考することができる。</p> <p>2、日本では数少ない「論文のレビュー」(『史学雑誌』の「回顧と展望」は、単なる紹介に過ぎない)を授業の場で公表し、それに対する疑義を受け止めるなかで、自分なりの評価の型を作ることができる。</p> <p>3、査読者の立場に身を置くことで、投稿者としての自己を振り返ることができる(ちなみに、査読付きの論文だからといって、これ以上の査読を必要としないほどに完成しているわけではない)。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回 全体の趣旨説明</p> <p>2~14回 受講者が1回分を担当する。時間の半分を論文の紹介、評にあて、残り半分の時間で、出席者全員による質疑応答を行う。受講者の数が少ない場合には、適宜受講者自身の研究発表の場を設ける。</p> <p>15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による評価を行う。											
----- 東洋史学(演習)(2)へ続く -----											

東洋史学（演習）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当論文を口頭で紹介する際に、補助材料としてレジュメを作成すること。

（その他（オフィスアワー等））

参加者は少ないことが予想されるので、他専修からの参加も歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 仁子 寿晴 研究員			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム言語哲学史研究									
【授業の概要・目的】											
<p>《授業全体のテーマ》</p> <p>通常のイスラーム思想史ではほとんど顧みられないのだが、或る類の言語哲学形態（なにがしかの意味でアラビア語から立ち上げられる言語哲学）がイスラーム思想の歴史において重要な柱であったと私は思う。昨年度の講義では、ロジェ・アルナルデス（Roger Arnaldez）がイブン・ハズム（西暦1064年歿）を論じた研究書（Grammaire et Theologie chez Ibn Hazm de Cordoue, Paris, 1956）を採り上げた。残念ながらその研究書全体を扱うことが出来なかった。今年度は、やや趣向を変えてフランスにおけるイスラーム思想研究の一つの流れに焦点を当てたい。ロジェ・アルナルデスの研究書は、イブン・ハズム／ザーヒル主義研究の金字塔であるばかりでなく、イスラーム思想を言語思想の方向から読むという点で画期的であった。それを継承するのが、ジャック・ランガド（Jacques Langhade）の研究である（Du Coran a la Philosophie, Damas, 1994）。ランガドがアルナルデスの全面的な指導の下に同書を完成させたのは、同書序に見えるとおり。</p> <p>本講義では、アルナルデスのイブン・ハズム研究書の後半部分とランガドの研究書を扱う。詳細は、授業計画をご覧ください。アルナルデスの研究書は、イスラーム思想研究に重要な示唆を与える点が多々あった。取り分けて日本人にとって重要なのは、井筒俊彦の英文著作群に意味論という方法論を与えるものであったことだ。アルナルデスでは、まだ萌芽的であった意味論が、ランガドでは、徹頭徹尾使い尽くすし方で扱われているのが興味深い。井筒の意味論が如何なるものであったかは、アルナルデス、ランガドのフランス語圏イスラーム思想研究での意味論研究の深まりと比較することなくして十分な評価ができないのではないか。</p> <p>ランガドの研究対象は、クルアーンやハディース（ムハンマドの言行録）の意味論から、アラビア文学、いわゆる宗教諸学を經由して、ファーラービー（西暦950年歿）の言語論に至る。その意味論の探究は、イスラーム文化が言語を如何に認識したかに焦点が当てられる（その分析に意味論が使われる）。現在、イスラーム哲学（ファルサファ）研究は、ほぼ同時代のイスラーム思想（コンテクスト）を無視する形で行われるが、ランガドの研究書は、その状況を打破する格好の素材であろう。</p> <p>なお二つの研究書は仏文であるが、事前に和訳と原文テキストを配布する。</p>											
【到達目標】											
<p>本講義は「イスラーム言語哲学史研究」と銘打った。イスラーム思想において「言語／アラビア語」を研究対象とするのは、限られた思想家だけでない。或る意味で既にクルアーンにおいてそうした傾向が見えるし、主要な思想家たちはほぼ例外なく言語哲学的な側面を有つ。種々の思想家たちの言語思想に触れることで、イスラーム思想史のかなりの部分が言語思想／言語哲学であることを考察できる。これは、別の言い方をすれば、従来のイスラーム思想史記述に何が欠けていたのかを理解することでもある。</p> <p>本講義は、アルナルデスが扱うイブン・ハズムにおける論理学と文法学と、ジャック・ランガドが扱うファーラービーにおける論理学と文法学が対比される。イスラーム思想界において論理学と文法学の位置づけがさまざまになされるのを目の当たりにすることになる。イスラーム思想において、論理学／文法学の問題がただならぬ問題であることを考察できる。</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【授業計画と内容】

基本的にR・アルナルデス『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』並びにJ・ランガド『クルアーンから哲学へ』の章立てに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい 鋭い質問への対応も含む に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。事前に私の日本語訳を配布するので出来る限り眼を通しておいていただきたい。

- | | | |
|------|----------------------------|--|
| 第1回 | 概説 | フランスのイスラーム思想研究、意味論、井筒俊彦 |
| 第2回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(1) | イブン・ハズムの対人論理(イブン・ハズムの言語哲学概説) |
| 第3回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(2) | ザーヒル法学派とシャーフィイー法学派の対抗 |
| 第4回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(3) | ハディース批判など |
| 第5回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(4) | イブン・ハズム神学(1)イブン・ハズムの論敵たち(ムウタズィラ派とアシュアリー学団) |
| 第6回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(4) | イブン・ハズム神学(2)イブン・ハズムの批判神学 |
| 第7回 | 『クルアーンから哲学へ』(1) | クルアーンとハディースの言語観/言語の意味論(1) |
| 第8回 | 『クルアーンから哲学へ』(2) | クルアーンとハディースの言語観/言語の意味論(2) |
| 第9回 | 『クルアーンから哲学へ』(3) | アラビア語散文学における言語観/言語の意味論 |
| 第10回 | 『クルアーンから哲学へ』(4) | 法学・神学・神秘主義における言語観/言語の意味論 |
| 第11回 | 『クルアーンから哲学へ』(5) | 文法学・辞書学における言語観/言語の意味論 |
| 第12回 | 『クルアーンから哲学へ』(6) | ファーラービーの言語理論(1)諸言語の形成と諸学における術語形成 |
| 第13回 | 『クルアーンから哲学へ』(7) | ファーラービーの言語理論(2)哲学言語の形成 |
| 第14回 | 『クルアーンから哲学へ』(8) | ファーラービーの言語実践(1)論理学vs.文法学 |
| 第15回 | 『クルアーンから哲学へ』(9) | ファーラービーの言語実践(2)哲学概念の分析 |

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートのみで評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。
独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

【教科書】

使用テキストは、R. Arnaldez, Grammaire et Theologie chez Ibn Hazm de Cordoue: Essai sur la structure et les conditions de la pensee musulman, Paris: Librairie Philosophique J. Vrin, 1956とJ. Langhade, Du Coran a philosophie: La langue arabe et la formation du vocabulaire phisologique de Farabi, Damas: L' Institut Francais d'Etudes Arabes de Damas, 1994.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

西南アジア史学(特殊講義)(3)へ続く

西南アジア史学(特殊講義)(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に仏文テキストと和訳を配布するので講義に備えて読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学43

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東南アジアのイスラームと中東アラブ地域との関係 Islam in Southeast Asia and its relationship with the Arab Middle East									
【授業の概要・目的】											
<p>東南アジアは、イスラーム世界の「周縁」に位置しながらも現在では非常に多くのムスリム人口を抱えている。この地域に住む人々のイスラームの信仰はしばしば表層的なものに見做されてきた。しかし、この宗教が東南アジア社会の中で歴史的に重要な役割を果たしてきたことを無視すべきではない。本講義では、東南アジア島嶼部を中心に、前近代から近代までのイスラームの歴史的展開について解説する。特にイスラーム世界の「中心」である中東アラブ地域との関係について、史料に参照しながら検討していく。</p> <p>Southeast Asia, although located on the periphery of the Muslim world, now has a very large Muslim population. The Islamic faith of the inhabitants has often been viewed as superficial. However, we should not ignore the fact that this religion has historically played an important role in Southeast Asian society. In this lecture, I will explain the historical development of Islam from pre-modern to modern times, focusing on the maritime Southeast Asia. In particular, we will examine the relationship with the Arab Middle East, the center of the Muslim world, referring to historical documents.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・前近代から現代までの東南アジアにおけるイスラームの歴史について基礎的な知識を獲得する。 ・東南アジアを事例として、イスラーム世界の中に存在する地域性や多様性、そして中心・周縁の関係について理解する。 <p>Upon the success of completion of this course, students (1) will acquire a basic knowledge of the history of Islam in Southeast Asia from pre-modern times to the present, and (2) will understand the regional characteristics and diversity that exists within the Islamic world, and the relationship between the center and the periphery, using Southeast Asia as a case study.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 東南アジアのイスラームの基礎知識 第2回 西アジアのムスリム商人と東南アジア 第3-4回 東南アジアにおけるイスラーム化の始まり 第5回 ワリ・ソング(九聖人)とジャワのイスラーム 第6-7回 マレー世界の形成と発展 第8回 東南アジア古典文学のなかのイスラーム 第9-10回 アラブ地域との学問ネットワーク 第11-12回 東南アジアからのマッカ巡礼 第13-14回 植民地支配の進展と抵抗運動 第15回 まとめ</p> <p>講義の進み具合や受講者の関心によって内容を変更することがある。</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

- 1: Basic Knowledge of Islam in Southeast Asia
2. West Asian Muslim Traders and Southeast Asia
- 3-4. The Beginning of Islamization in Southeast Asia
5. Wali Songgo (Nine Saints) and Islam in Java
- 6-7 The Formation and Development of the Malay World
- 8 Islam in the Classical Literature of Southeast Asia
- 9-10. Intellectual Network with the Arab region
- 11-12. Pilgrimage to Makkah from Southeast Asia
- 13-14 Progress of Colonial Rule and Resistance Movements
15. Conclusion

The contents may be changed depending on the progress of the lecture and the interests of the students.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加（50点）、レポート（50点）で評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学44

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲葉 穰			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ムスリムの東方拡大とイラン・イスラーム文化の形成 Muslim expansion to the east and the formation of Iran-Islamic culture									
【授業の概要・目的】											
<p>アラブ人による拡大運動という側面を持った最初期のムスリムによる大征服から、9世紀前半のアッバース朝の分裂に到るまでの間は、イラン文化とイスラームの邂逅、衝突、融合の時期であった。新たな出土資料や、イラン的宗教文化に関する近年の新たな研究動向を参考に、イスラーム教の東方拡大というプロセスの政治・文化・宗教面における特質を考察する。</p> <p>The period from the early Muslim conquest to the Abbasid breakup in the first half of the 9th century was filled with the encounters, clashes and amalgamation of the Iranian culture and the Islam. In this class, the political, cultural, and religious aspects of Islamic expansion to the east is considered by introducing the latest scholarships on the filed.</p>											
【到達目標】											
<p>イスラーム宗教文化の持つ地域性について、そのルーツを考察できるようになる。</p> <p>Achieving the understanding of the local feature of the religious culture of Islam, as well as their origins.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週：ガイダンス 第2~第4週：ムスリムの東方拡大プロセスについての概説 第5~第6週：新出資料の解説 第7~14週：反アラブ的宗教運動の分析 第15週：まとめ</p> <p>week 1: Guidance weeks 2-4: Outline of the Muslim conquests to the east. weeks 5-6: Introducing newly discovered materials. weeks 7-14: Various facets of anti Arabo-Islamic movements in the east. week 15: Wrapping up.</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点と期末レポートで評価する。

Evaluation based on the attendance of classes and on the short essay in the end of the semester.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

第7週から14週にかけて、反アラブ的宗教運動に関する研究書、論文を会読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学45

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相									
【授業の概要・目的】											
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。											
【到達目標】											
中央アジアの近現代（ロシア帝政支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける基本的な民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定に従って、講義を行う。											
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週） * 民族史の記述（第3-4週） * ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週） * 中央アジア諸国の独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週） * 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週） * 新しい正史（第13-14週） * まとめ（第15週） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>宇山智彦（編著）『中央アジアを知るための60章』』（明石書店）ISBN:978-4-7503-3137-9（中央アジア研究の入門書）</p> <p>小松久男『革命の中央アジア あるジャディードの肖像』（東京大学出版会）ISBN:4-13-025027-2</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

(ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)

宇山智彦 『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」 『地域研究論集』 Vol.2, No. 1 (1999)』
(国立民族学博物館地域研究企画交流センター) (ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)

帯谷知可 『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」 酒井啓子・白杵陽編 『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-034185-5 (ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)

帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60章』 (明石書店) ISBN:9784750346373 (ウズベキスタン地域研究の入門書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。
連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		早稲田大学 文学部 准教授 五十嵐 大介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		マムルーク朝史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>10世紀のイスラーム文明圏は、アッバース朝カリフの弱体化とともに政治的統一性が失われ、各地に軍人政権が登場する、新たな時代を迎える。その中で、軍事奴隷（マムルーク）のクーデターにより成立し、エジプト・シリアという東方アラブ世界（マシュリク）の中心部分を支配したマムルーク朝（1250-1517）は、東方のモンゴル、西方の十字軍といった外敵を退けて軍事的な覇権を確立するとともに、メッカ・メディナの二聖都を保護下に置き、モンゴルによって滅亡したアッバース朝カリフを首都カイロに新たに擁立することで、イスラーム世界の盟主的存在となった。この王朝のもと、エジプト・シリアは経済的繁栄を謳歌するとともに、それ以前からのイスラーム的伝統を受け継ぎながら学術・文化活動が花開いた。本講義は、このようなマムルーク朝史に関する重要なトピックについて、近年の研究動向を踏まえながら、学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>中期イスラーム時代の西アジアの歴史を、イスラーム世界の歴史全体の中に位置づけ、その特徴を理解し、説明できるようになる。 マムルーク朝史を中期イスラーム時代の西アジアの歴史の中に位置づけ、その特徴を理解し、説明できるようになる。 マムルーク朝史研究に関する近年の動向と議論について理解し、説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には以下の授業計画にしたがって進めていくが、内容や順序は固定したものではなく、担当者の方針と受講者の背景や理解に応じて担当者が適切に決める。</p> <p>第1回：イントロダクション（本講義の目的と概要） 第2回：マムルーク朝史とマムルーク朝研究史（概論） 第3回：中期イスラーム時代（1000-1500）の西アジアとマムルーク朝 第4回：アヤロニズムと奴隷軍人論 第5回：マムルーク朝の成立をめぐって 第6回：マムルーク朝体制確立期の諸問題 第7回：政治史から見るマムルーク朝史の時代区分 第8回：「マムルーク関係（Mamluk ties）」をめぐる議論 第9回：「マムルーク化（Mamlukization）」をめぐる議論 第10回：マムルークの家族と女性 第11回：社会経済史から見るマムルーク朝史の時代区分 第12回：地方行政とイクター制 第13回：マムルーク体制とワクフ 第14回：マムルーク社会とワクフ 第15回：まとめ</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートにより評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

アイラ・M・ラピダス 『イスラームの都市社会：中世の社会ネットワーク』（岩波書店，2021年）
ISBN:9784000614689

佐藤次高 『新装版 マムルーク：異教の世界からきたイスラームの支配者たち』（東京大学出版会，
2013年）ISBN:9784130065115

佐藤次高編 『西アジア史1 アラブ（新版世界各国史8）』（山川出版社，2002年）ISBN:
9784634413801

(関連URL)

<https://mamluk.uchicago.edu/msr.html>

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の中で紹介した参考文献を参照すること。関連URLから関連する論文を調べ参照すること。

(その他（オフィスアワー等）)

授業中、わからないことについては積極的な質問を期待する。
メールによる質問も受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学47

科目ナンバリング		G-LET25 66831 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代中央アジアのシャリーア法廷裁判研究 A research into shari`a court trials in modern Central Asia									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀から20世紀初頭の中央アジアで作成された法廷文書を史料として、シャリーア法廷裁判のながれ、係争内容について具体的に説明する。</p> <p>This course aims to explain concretely about the process of shari`a court trial and the typical cases settled there by using Central Asian court documents either issued by or submitted to the judges (qadis) during the second half of the 19th and the early 20th centuries.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ シャリーア（イスラーム法）法廷文書の史料としての特性を理解し、自身の研究に活かすことができる。 ・ 史料から歴史的事実を引き出す技術を習得し、自身の研究に活かすことができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) have an adequate knowledge about specific characteristics inherent to Central Asian sharia court documents.</p> <p>(2) gain skills to deduct reliable facts from historical sources.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業ガイダンス、時代背景の説明 第2回 ロシア帝政期中央アジアの司法制度概説 第3回 シャリーア法廷の業務とこれを運営する人々：カーディー、ムフティー、書記 第4回 イスラーム法における裁判 第5回~第7回 裁判文書：訴状、判決文、ファトワー、タズキラ 第8回~第12回 ファトワー文書とそこに引用される法学説の分析 第13回~第14回 各種裁判文書による判決台帳テキストの補完 第15回 授業内容のまとめ、および、授業で扱ったトピックについての討議</p> <p>Week 1: Giving a brief sketch of Central Asian history during the 19th and early 20th centuries Week 2: Explaining legal systems of Central Asia under the domination of Russian Empire Week 3: Qadis, Muftis, scribes: Who ran Central Asian shari`a court? Week 4: The trial within the framework of Islamic law Weeks 5-7: The court documents concerning trials: Mahdar (complaint), Hukm (judgment), Fatwa (legal opinion issued by Muftis), Tadhkira (record of proceedings of a trial) Weeks 8-12: Analyzing the main text of fatwa documents with the citations from legal books found in their margin Weeks 13-14: Reconstructing the process from filing suit to delivery of a judgment in shari`a courts of Russian Turkestan</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

Week 15: Feedback and Discussion

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への取組（50％）、期末レポート（50％）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の内容を復習したうえで授業に臨むこと。

Students will be required to review class notes before attending each lesson.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET25 76842 SJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語、アラビア語両語による法学文献講読 Reading Islamic legal texts in both Persian and Arabic									
【授業の概要・目的】											
<p>16世紀のシャーフイー派ウラマーであるIbn Ruzbihanが、ペルシア語で著した統治マニュアル、Suluk al-Mulukを講読する。ペルシア語本文と引用元のアラビア語原文を対照することにより、アラビア語がペルシア語に翻訳される際、アラビア語固有の表現がどのようにペルシア語に移し替えられたのかにつき学習する。</p> <p>In this course students read Suluk al-Muluk, the early 16th century Central Asian governance manual compiled by Ibn Ruzbihan, a Shafiite ulama who fled there to avoid persecution from Shiite Safavids. The work consists of citations from different Arabic lawbooks, which were literally translated into Persian by the author. We can easily find out original Arabic text of each part of the work owing to annotations made by the author about reference sources. Students will read the work in both Persian and Arabic, thereby acquiring knowledge about to what extent Arabic syntax left its traces on translated text.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ペルシア語、および、アラビア語の文法をより深く理解し、歴史的なテキストを正確に読解することができる。 ・イスラーム法学の基本的な術語について正確に理解し、これを他者に説明することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) gain an in-depth understanding about the grammar of both Persian and Arabic and obtain the ability to read historical text written in these languages accurately.</p> <p>(2) have an adequate knowledge about the technical terms used by Islamic jurists.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業の進め方についての説明。講読文献の著者、および、その内容についての解説。</p> <p>第2回~第14回 Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、ハラージュの徴収方法について述べた箇所の講読。</p> <p>第15回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>第16回~第29回 Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、ハラージュの用途について述べた箇所の講読。</p> <p>第30回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>Week 1: Explaining about the author and work Weeks 2-14: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) explaining how to collect kharaj tax Week 15: Feedback and Discussion</p>											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

Weeks 16-29: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) explaining how to use kharaj tax
Week 30: Feedback and Discussion

【履修要件】

アラビア語ないしペルシア語の基礎文法を学習していることが望ましい。

Students are expected to have learned the basic grammar of either Arabic or Persian.

【成績評価の方法・観点】

講読の担当、予習の状況にもとづき、平常点で評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

使用しない
PDF化したファイルを、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、前回の授業時に予告された講読箇所を一通り読んで授業に参加すること。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学49

科目ナンバリング		G-LET25 76844 SJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>本年度は、マムルーク朝時代後期の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準：アラビア語文を適切に音読し文法に即して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
講読教材および関連資料は配布する。											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学50

科目ナンバリング		G-LET25 76844 SJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>前期に引き続き、マムルーク朝時代の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
講読教材および関連資料は配布する。											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学51

科目ナンバリング		G-LET25 76850 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 今松 泰 客員准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代トルコ語文法・講読									
【授業の概要・目的】											
現代トルコ語文法の基礎を学び、その後、現代トルコ語で書かれた研究書あるいは論文の講読を行う。 さらに受講者の必要に応じて、アラビア文字表記のトルコ語（オスマン語）文献の講読をおこなう。											
【到達目標】											
現代トルコ語の基礎的な文法事項を確実に習得し、それらの知識を活用してトルコ語の文献を読みこなせるようになることが到達目標である。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 文字と発音 第2回 母音の交替、子音の交替 第3回 数詞、形容詞、複数接尾辞、人称、所有人称接尾辞 第4回 格接尾辞（1） 第5回 格接尾辞（2）、名詞修飾 第6回 代名詞、否定文、疑問文、後置詞 第7回-第9回 動詞 活用 第10回 動詞語幹の派生 第11回 動名詞 第12回 形動詞（分詞、連体形） 第13回 副動詞ほか *以降の授業では現代トルコ語、さらにはオスマン語のテキストを講読する 第14回-第30回 テキスト講読											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価。 参加者の受講態度と担当した講読の内容をもとに評価する。 文法習得時には、課題を課し、確認のため小テストを行うことがある。											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

文法事項の説明をしている間、予習は特に必要ではないが、毎授業後の復習は必ず行なうこと。
テキスト講読に入ってから、必ず予習を行なうこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学52

科目ナンバリング		G-LET25 76851 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語講読 Reading Persian historical text									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、ミールホンド（1498年没）が著した著名なペルシア語年代記『Raudat al-Safa』の一部を講読する。講読対象となるのは、アンカラの戦い（1402年）を叙述する箇所である。本授業では、近世のイラン、中央アジアで作成された美文体ペルシア語年代記の読解能力の涵養を目指す。</p> <p>In this course students read some parts of Raudat al-Safa, a famous Persian chronicle compiled by Mirkhwand (d. 1498). The parts that will be read in this course gives the story about the battle of Ankara (1402). The main purpose of the course is to gain the ability to read Persian historical text written in the florid prose style common to almost all chronicles created in pre-modern Iran and Central Asia.</p>											
【到達目標】											
<p>ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業ガイダンス、講読作品、および、時代背景の説明 第2回~第14回 同作品中、アンカラの戦いについて叙述する箇所を講読する 第15回 授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答</p> <p>Week 1: Explaining about Mirkhwand and his Raudat al-Safa Weeks 2-14: Reading the parts of Raudat al-Safa concerning the battle of Ankara Week 15: Feedback and Discussion</p>											
【履修要件】											
<p>ペルシア語の基礎文法を習得していること。</p> <p>Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>講読への取組と、事前準備の状況を基準として、平常点により評価する。</p> <p>Participation in class and preparation for reading</p>											
【教科書】											
<p>使用しない 必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。</p>											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

Handouts will be shared through Google Drive

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。目安となる予習時間は、180分程度である。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text (about 180 mins. for each class)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学53

科目ナンバリング		G-LET25 76851 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲葉 穰			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		前モンゴル期ペルシア語文献の解読									
[授業の概要・目的]											
13世紀以前に書かれた古典ペルシア語文献の解読を通じて、イラン・イスラーム文化の初期の様相を学ぶ。											
[到達目標]											
11世紀にガズナ朝の書記アブー・アルファズル・バイハキーが著した歴史書『バイハキーの歴史』を題材に、イスラーム的な文化要素がどのようにイラン世界に根付いていったのか、逆にイラン世界はどのようにイスラーム化されたのかを理解することを目指す。											
[授業計画と内容]											
第一回 古典ペルシア語文献の全般的解説 第二回 『バイハキーの歴史』出現の背景についての解説 第三回～第十五回 ペルシア語テキストの会読											
[履修要件]											
近世ペルシア語文法をすでに学んでいること。できればペルシア語文献解読の経験があるほうが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
出席者には毎回訳註の作成を担当してもらうので、これを含めた平常点を80%、期末に提出してもらうレポートを20%で採点する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
出席者、とくに担当者はしっかりと予習し、訳註の原稿を作成して配布する準備をすること。 (その他(オフィスアワー等)) 授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学54

科目ナンバリング		G-LET49 89608 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イラン語（初級）（語学） Iranian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 杉山 雅樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イラン語（初級）									
【授業の概要・目的】											
この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語（新ペルシア語）の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。											
【到達目標】											
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
（前期）											
第1回 イントロダクション、文字											
第2回 発音と表記の注意点											
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞											
第4回 形容詞、エザーフェ、人称代名詞											
第5回 過去形、前置詞											
第6回 現在形、複合動詞											
第7回 現在形、未来形、副詞											
第8回 現在完了形、命令形											
第9回 仮説法、助動詞											
第10回 助動詞、人称代名詞、受動態											
第11回 接続詞											
第12回 関係詞、祈願文、副詞											
第13回 接続詞、複合動詞、過去分詞、現在分詞、その他											
第14回 数詞											
第15回 確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について											
（後期）											
第16～18回 現代文（物語）の読解（1）～（3）											
第19～21回 現代文（イランの教科書）の読解（1）～（3）											
第22～29回 古典文（歴史史料）の読解（1）～（8）											
第30回 フィードバック（詳細については授業内で指示する）											
前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。 後期は、まずイランの物語や教科書など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。 原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。											
----- イラン語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

イラン語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（前期と後期の合計で100点）
前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）
後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

各期で4回以上欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

前期は文法事項をまとめたレジュメを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーをある程度まとめて事前に配布する。

【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。
その他の辞書や文法書など参考文献については、授業内で指示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。
実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学55

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学 グローバル地域文化学部 教授 水谷 智			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「間-帝国史」の視点からみた日・英帝国における植民地支配と抵抗									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、異なる帝国間の同時代的な関係性を歴史化する「間-帝国史」(trans-imperial history)の視座から、植民地主義とそれへの抵抗の歴史を再考することである。事例として、イギリス帝国と日本帝国およびそれぞれの植民地(特にエジプト・インドと台湾・朝鮮)をとりあげ、議論する。各テーマに2週を割り当て、ディスカッションをとり入れたインタラクティブな授業をおこなう。											
【到達目標】											
帝国史研究および植民地研究についての知識を深めつつ、「間-帝国史」の視点から近代の歴史を問うことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
間-帝国史(trans-imperial history)の理論と方法【第1~2週】											
第1部 間-帝國的協力と植民地統治											
台湾の植民地化の始まりとイギリス人顧問官・W.M. カークウッド【第3~4週】											
朝鮮の保護国化とモデルとしてのイギリスのエジプト支配【第5~6週】											
植民政策の「国際標準」と日本帝国【第7~8週】											
第2部 反植民地主義と間-帝國的緊張											
対立する帝国と独立運動 日本人にとってのインドとイギリス人にとっての朝鮮【第9~10週】											
「反植民地主義的な帝国」(?) 汎アジア主義者と日本の朝鮮統治【第11~12週】											
被支配経験と感情的連帯: インド・朝鮮における抵抗と相互連関【第13~14週】											
総括【第15週】											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

英語の学術論文を参考文献として提示することがあるが、読む努力をいとわない人が受講者として望ましい。

[成績評価の方法・観点]

毎回の質問・コメントの提出（50％）とディスカッションへの参加（50点）。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<https://kendb.doshisha.ac.jp/profile/ja.1dd6f580b031cf12.html>（「間-帝国史」に関するダウンロード可能な拙論が何本かあります。関心のある人は目を通してみてください。）

[授業外学修（予習・復習）等]

あらかじめ配付された参考文献はできるだけ読む努力をすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学56

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、セネカ『生の短さについて』を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学57

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 竹下 哲文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前期に引き続き、セネカ『生の短さについて』を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学58

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア帝国とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下のザカフカス(トランスコーカサス)史を、ジョージア(グルジア)中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とグルジア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。</p>											
【到達目標】											
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2,3回：「半アジア人」</p> <p>第4,5回：露土戦争</p> <p>第6,7回：「ムスリム・グルジア人」の文字と宗教</p> <p>第8,9回：油田とマンガン鉱山</p> <p>第10,11回：マルクス主義サークル</p> <p>第12,13回：義賊と革命</p> <p>第14回：1905年</p> <p>第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学59

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア革命とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>南カフカスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージア(グルジア)の社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南カフカスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。</p>											
【到達目標】											
<p>第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。</p>											
【教科書】											
<p>プリントを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
【授業外学修(予習・復習)等】											
<p>各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーは、月曜3限とする。</p>											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

歴史文化学60

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学部 講師 見瀬 悠			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		外国人の近世フランス史									
【授業の概要・目的】											
<p>近世フランス王国は王権が社団を介して統治する社団編成国家であり、政治的主権者としての国民によって構成される「国民国家」ではなかった。しかし、近世には国王を中心とした国家形成のなかで、国王の支配に服す臣民共同体としてのナシオンと、それに対置される「外国人」の概念が創出され制度化されたことはあまり知られていない。さらに、重商主義的競争を背景とする国家の経済発展への欲求は、技術移転や商業振興のための外国人招聘政策と強く結びつく反面、国家の利益保護のための外国人の排除や、治安維持のための外国人監視、徴税請負契約にもとづく外国人の遺産没収も行われていた。この授業では、近世フランスにおける君主制主権国家の形成と発展を外国人史の観点からとらえなおすことを試みる。それによって、従来の研究で十分に論じられてこなかった、近世フランスにおけるナショナルな帰属のもった意味や重みを再評価することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近世フランス王国の歴史に関する基本的な事項を理解し、説明できるようになる。 ・近世国家の特徴を多角的に説明できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入：先行研究と問題提起 第2回 中世末期における君主制主権国家の形成と外国人 第3回 外国人の法的地位 第4回 外国人の帰化 第5回 重商主義と外国人 第6回 フランス植民地と外国人 : フランス植民地政策 第7回 フランス植民地と外国人 : 排他制と外国人 第8回 外国人の監視と統制：パリの事例を中心に 第9回 外国人遺産取得権の実施 : 司法制度と史料 第10回 外国人遺産取得権の実施 : 対象となった外国人 第11回 外国人遺産取得権の実施 : 外国人の回避戦略 第12回 外国人をめぐる言説 : 臣民共同体からの「自然」な排除 第13回 外国人をめぐる言説 : 啓蒙期のコスモポリタニズムと外国人 第14回 フランス革命と外国人 第15回 総括とフィードバック</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

授業に参加する前提として、近世フランス史の大まかな流れについて概説書などで予習しておくことが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

最終試験（70点）、授業への参加状況（30点）

- ・授業の最後に授業の理解度をはかるためのリアクション・ペーパーを書いてもらうので、その内容により授業への参加状況を判断する。
- ・最終試験（筆記）を実施する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・授業で関連文献を紹介するので、それらを読んで授業内容の理解を深めるよう努めること。

（その他（オフィスアワー等））

質問については、リアクション・ペーパーで受け付けます。メールでの質問も受け付けますので、必要に応じharukamise@osaka-u.ac.jpにメールしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学61

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学 文芸学部 准教授 函師 宣忠			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世ヨーロッパにおける紛争と裁判									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、中世ヨーロッパの紛争や裁判に関するトピックを取り上げて、史料のあり方に着目しながら「メディアとコミュニケーション」という観点から具体的に検討していく。過去のヨーロッパ社会を生きた人々は、争いや諍いにどのように対処していたのか。あるいはいかに裁かれたのか。法と裁判のあり方（ひいては紛争と紛争解決のあり方）は、その時代の社会の構造や人々の価値観を映し出す。紛争の記録や裁判記録など関連する史料を読み解きながら、当時の社会について理解を深めたい。また現代の日本社会との比較を通じて、私たちが当たり前に取り扱っている現代社会のありようを見つめ直すきっかけをもちたい。</p>											
【到達目標】											
<p>歴史的な知識の習得：中世ヨーロッパ社会の歴史過程について基本的な知識を習得する。 歴史学的なまなざしの獲得：歴史的な史料の性質を踏まえて、そこから読み取れる内容について判断できるようになるとともに、歴史を学ぶ意味について考えを深める。 法的思考の涵養：法の根本的な価値や考え方を理解し、社会的判断力を培う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン：中世とは何か？ 第2回 中世における記憶と記録 第3回 紛争のなかのヨーロッパ中世 第4回 紛争と紛争解決1：神判・宣誓・決闘裁判 第5回 紛争と紛争解決2：フェーデと神の平和 第6回 紛争と紛争解決3：中世都市と暴力 第7回 中世におけるキリスト教と異端 第8回 異端審問と権力1：異端審問とは何か？ 第9回 異端審問と権力2：審問記録の作成・保管・利用 第10回 ジャンヌ・ダルク裁判1：ジャンヌ・ダルクとその時代 第11回 ジャンヌ・ダルク裁判2：審問記録を読む 第12回 近世への展望1：国王裁判と恩赦嘆願 第13回 近世への展望2：魔女裁判と拷問による自白 第14回 まとめ：中世史とは何か？ 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業中の小レポート：50% （各回の授業中に小レポートを課す）</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

期末レポート試験：50%

(講義内容の理解を前提に、所定の論点に関する論述式のレポートを課す)

[教科書]

使用しない

講義内容に関連する資料を授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)

服部良久ほか編 『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世] 』 (ミネルヴァ書房、2006年) ISBN:978-4623045921

上垣豊編 『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』 (ミネルヴァ書房、2020年) ISBN:978-4623087785

各回の講義内容に関連する文献については授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：概説書などを読み、中世ヨーロッパ史に関する基礎的な知識を身につける。

復習：授業内容を振り返り、講義の要点を整理するとともに、授業中に紹介された文献を可能な限り読み、理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

毎回の授業終了後に、質問や相談を受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学62

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		第二次世界大戦再考									
【授業の概要・目的】											
<p>「20世紀史に決定的な切れ目を記した」（イアン・カーショー）と評される第二次世界大戦が、現代世界を強く方向づけたことは論を俟たない。第二次世界大戦を最新の研究水準に則して理解することは、現代世界に生き、それを乗り越えようとする人々にとって、不可欠の基礎的教養といってもよい。容易ならざる課題ではあるが、近年の研究成果を援用して、きわめて複合的な第二次世界大戦＝「20世紀ヨーロッパの苦悩に充ちた歴史の震央」（カーショー）の全体像の構築を試みたい。</p>											
【到達目標】											
<p>高度な複合性を特徴とする第二次世界大戦をトータルに把握し、この戦争がその後の現代世界の展開に及ぼした甚大な影響を理解する能力を身に着けること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) 第二次世界大戦の基本的性格（3回） (2) 前史（2回） (3) 第二次世界大戦の展開 1939年9月～1941年12月（3回） (4) 第二次世界大戦の展開 1941年12月～1943年2月（3回） (5) 第二次世界大戦の展開 1943年2月～1945年8月（3回） (6) 総括（1回）</p> <p>授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期・後期の授業を通年で受講することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末のレポートによって評価する。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない プリントを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

自分の関心に合わせて、第二次世界大戦関連の書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学63

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中立国の第二次世界大戦：アイルランドに則して									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業を受け、第二次世界大戦というグローバルな動乱の中で中立のスタンスをとることの意味を、アイルランド（厳密には北アイルランドを除くエール）の経験を通じて考える。イギリスとアメリカから執拗な参戦圧力がかけられ、ドイツによる侵攻が懸念され、国内では厳しい検閲の実施を余儀なくされ、物資不足の深刻化に悩まされ、等々、中立を維持するためにアイルランドはさまざまな難問への対処を求められた。それでもなお中立を貫いたことにはいかなる意味があったのか、後期の授業の中核的な問いはこれである。</p>											
【到達目標】											
戦時における中立というスタンスに伴う困難とその可能性を理解する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> (1) 第二次世界大戦の中立国（1回） (2) アイルランド自由国からエールへ（1回） (3) 「緊急事態」の到来と中立宣言（1回） (4) ナチズムとIRA（1回） (5) 侵攻の脅威と参戦圧力（2回） (6) 対アメリカ関係（1回） (6) 「友好的中立」と戦争協力（2回） (7) 検閲国家（2回） (8) 国民生活（1回） (9) 北アイルランドの大戦経験（1回） (10) 戦後の孤立（1回） (11) 総括（1回） 											
授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。											
【履修要件】											
前期の授業を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートによって評価する。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次の文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

小関隆『アイルランド革命、1913-23：第一次世界大戦と二つの国家の誕生』（岩波書店、2018年）

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学64

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食をめぐる研究の方法 2 明治大正期の食 3 アジア太平洋戦争までの食 4 戦後の食 5 牛乳の歴史学 6 品種改良の歴史学 7 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p> <p>ポール・ロバーツ 『食の終焉』</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学65

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食糧戦争としての第一次世界大戦 2 有機農業の歴史 3 毒ガスと農薬の歴史 4 トラクターの歴史 5 戦時期の農村女性たち 6 食糧戦争としての第二次世界大戦 7 フィードバック 											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p> <p>ポール・ロバーツ 『食の終焉』</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学66

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ローマ帝国論：ファーガス・ミラーの仕事とその影響 I									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、ファーガス・ミラー（1935-2019）の幅広いローマ帝国史研究を出発点として、その研究史上での意義とその後の研究動向に与えたインパクト、さらにはミラーにたいする批判を幅広く紹介しながら、ローマ帝国史研究の重要な問題にたいする理解を深めることを目的とする。具体的には、ローマ共和政の本質、ローマ帝国支配の属州への影響、ローマ皇帝論、ローマ帝国とギリシア人の関係、ローマ帝国下のユダヤ人とオリエント世界、が主要な論点となる。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業を通じて、ローマ帝国史研究に多大な貢献をおこない、いくつかの分野で現在まで継続するトレンドを生み出したファーガス・ミラーの研究の概要を理解し、その意義と問題点を的確に把握できるようになる。さらに、ミラー以降の研究動向を学ぶことで、歴史学における学説史形成のプロセスを理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. ローマ共和政論（5回） 3. ローマ皇帝論（5回） 4. ローマ帝国支配のインパクト（3回） 5. まとめ・フィードバック（1回） 											
【履修要件】											
<p>受講にあたって、古代ギリシア語やラテン語、および西洋古代史に関する知識は前提とはしていない。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>レポート試験をおこなう。講義内容に関するレポート試験をおこない、これに基づいて授業の理解度を評価する。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された文献を可能な限り参照し、授業に使用したレジユメなどをしっかりと復習すること。

（その他（オフィスアワー等））

後期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「ローマ帝国論：ファergus・ミラーの仕事とその影響Ⅱ」も連続して受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学67

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ローマ帝国論：ファーガス・ミラーの仕事とその影響 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、ファーガス・ミラー（1935-2019）の幅広いローマ帝国史研究を出発点として、その研究史上での意義とその後の研究動向に与えたインパクト、さらにはミラーにたいする批判を幅広く紹介しながら、ローマ帝国史研究の重要な問題にたいする理解を深めることを目的とする。具体的には、ローマ共和政の本質、ローマ帝国支配の属州への影響、ローマ皇帝論、ローマ帝国とギリシア人の関係、ローマ帝国下のユダヤ人とオリエント世界、が主要な論点となる。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業を通じて、ローマ帝国史研究に多大な貢献をおこない、いくつかの分野で現在まで継続するトレンドを生み出したファーガス・ミラーの研究の概要を理解し、その意義と問題点を的確に把握できるようになる。さらに、ミラー以降の研究動向を学ぶことで、歴史学における学説史形成のプロセスを理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. ローマ帝国下のギリシア人（6回） 3. ローマ帝国下のユダヤ人（2回） 4. ローマ帝国とオリエント（2回） 5. 後期ローマ帝国（2回） 6. まとめ・フィードバック（2回） 											
【履修要件】											
<p>受講にあたって、古代ギリシア語やラテン語、および西洋古代史に関する知識は前提とはしていない。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>レポート試験をおこなう。講義内容に関するレポート試験をおこない、これに基づいて授業の理解度を評価する。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介された文献を可能な限り参照し、授業に使用したレジュメなどをしっかりと復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

前期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「ローマ帝国論：ファergus・ミラーの仕事とその影響Ⅰ」も連続して受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世ポーランド・リトアニア共和国の文化と社会 多様性とコミュニケーションの視 点から									
【授業の概要・目的】											
<p>近世のポーランド・リトアニア共和国は、バルト海南岸から黒海北方のステップ地帯にかけて広がる領域を支配する複合的な国家であった。その国土は東西のキリスト教圏の境界線上に位置しており、住民のなかにはキリスト教徒以外の宗教の信徒も含まれていた。16世紀には、宗教改革の波及によって、宗派的な多様性はさらに高まった。宗教的・言語的・階層的に多様なこの地域の人びとは、どのように社会に統合され、共存していたのであろうか。また、彼らのあいだのコミュニケーションは、どのようになされていたのであろうか。この講義では、具体的な事例の考察をとおして、こうした問題を考えるための手がかりを提示したい。</p>											
【到達目標】											
<p>ポーランド・リトアニアにおける具体的な事例に触れることをとおして、ヨーロッパ東部の近世（16・17世紀）の社会と文化について、宗教・言語・コミュニケーションの視点からみた歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような内容を取りあげる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多宗教・多言語国家としてのポーランド・リトアニア共和国（3回） 近世ポーランドの社会成層観（3回） メルクリウシュ・ポルスキ ポーランド語による最初の新聞（3回） 恋文と新聞のあいだ ポーランド王権のメディア戦略（2回） 文芸共和国とポーランド・リトアニア（3回） フィードバック <p>は宗派と言語、 は階層の視点からポーランド・リトアニア共和国内部の多様性と社会的統合について概観する。 ~ はコミュニケーションの視点からヨーロッパ東部の近世の特徴を考える。のフィードバックの時間に本講義の内容にかんする質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
<p>受講にあたって、言語的・歴史的に特別な知識をもっていることを前提とはしていない。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。 論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

とくに使用しない。授業内容にかかわる資料をオンラインで配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や、ヨーロッパ近世史・東欧史の概説書などで、その都度、確認しておくとう理解が深まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

後期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「環大西洋革命とポーランド」を連続して受講すると、16～18世紀のポーランド・リトアニアの歴史を通観することができる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		環大西洋革命とポーランド・リトアニア									
【授業の概要・目的】											
<p>18世紀後半は、大西洋をはさんで、アメリカ大陸とヨーロッパ大陸の双方で、政治地図が大きく塗りかえられた時代である。アメリカ大陸では、イギリス領13植民地が本国の支配に武力で抵抗し、アメリカ合衆国として独立した。ヨーロッパ大陸の西方ではフランス革命によって旧体制が崩壊し、東方ではポーランド・リトアニア共和国が周辺の3国によって分割されて消滅した。これらの一連の変化は相互に関連しており、その全体を総称して「環大西洋革命」とも呼ぶ。</p> <p>本講義では、タデウシュ・コシチューシコ（1746～1817）とユゼフ・パヴリコフスキ（1767～1829）という2人の人物の生涯をたどりながら、啓蒙期の知的交流、アメリカ独立革命・フランス革命とポーランド・リトアニアの変革の動き、分割と抵抗が連鎖する経緯を追ってみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>この講義をつうじて、ヨーロッパ東部の視点から18世紀後半の一連の変革の歴史的意義を見つめ直し、近世から近代への転換期についての歴史的理解を深めることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような内容を取りあげる。</p> <p>日本人にとっての「コシチューシコ」 『佳人之奇遇』から『天の涯まで』まで 「環大西洋革命」論について 系譜と問題点</p> <p>18世紀のポーランド・リトアニア共和国 社会構造と国制 コシチューシコの生い立ち ヨーロッパ啓蒙の東と西 コシチューシコがフランスで学んだこと コシチューシコの「アメリカ」(1) コシチューシコの「アメリカ」(2) パヴリコフスキの政治思想(1) 人民君主主義 祖国の改革と危機 4年議会から第2次分割へ 「自由・全体・独立」 コシチューシコ蜂起とその帰結 パヴリコフスキの政治思想(2) 王のいない共和政 ナポレオンとコシチューシコ 農奴制と奴隷制 コシチューシコの世界思想 英雄崇拜と神格化 ポーランド人の記憶のなかのコシチューシコ フィードバック(講義の内容についての質問に答える)</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

受講にあたって、言語的・歴史的に特別な知識をもっていることを前提とはしていない。

【成績評価の方法・観点】

学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。
論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。

【教科書】

とくに使用しない。授業内容にかかわる資料をオンラインで配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や、ヨーロッパ近世史・東欧史の概説書などで、その都度、確認しておくとう理解が深まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

前期の同じ曜日・時限に開講される「近世ポーランド・リトアニア共和国の文化と社会」を併せて受講すると、16～18世紀のポーランド・リトアニア史を通観できる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学70

科目ナンバリング		G-LET26 66931 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		山口大学 人文学部 准教授 南雲 泰輔			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		410年のローマ市劫略を再考する									
【授業の概要・目的】											
410年8月24日、「永遠の都」と称された都市ローマは、アラリック率いる西ゴート族によって劫略された。3日間にわたって行なわれたこの劫略は、前390/387年頃のガリア人による劫略ののち、およそ800年間の平和を享受してきた「首都」を震撼せしめた事件であり、帝国各地の同時代人たちにも強い衝撃をもって受け止められた。研究史上ではこの事件をめぐるさまざまな見解が提示されてきたが、現在の学界では、その歴史的意義は必ずしも自明のものとして説明されていない。本講義は、この410年のローマ市劫略について、最新の研究成果を踏まえつつ再考を試みる。											
【到達目標】											
後期ローマ帝国時代の政治史の基本的な展開を理解したうえで、先行研究・史資料・授業内容を踏まえ、自らに固有の視点から、410年のローマ市劫略の歴史的意義を説明することができる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入：弓削達著『永遠のローマ』をめぐる</p> <p>第2回 後期ローマ帝国史と時代区分</p> <p>第3回 「永遠の都」ローマとその歴史</p> <p>第4回 気候変動と帝国の変容</p> <p>第5回 皇帝がいなくなった「首都」</p> <p>第6回 ゲルマン人とローマ人</p> <p>第7回 宮廷の分割と東西帝国の不和</p> <p>第8回 西ゴート王アラリックとイリュリウム問題</p> <p>第9回 406年における「蛮族」のライン渡河</p> <p>第10回 410年のローマ市劫略</p> <p>第11回 拉致されたアウグスタ</p> <p>第12回 キリスト教徒と「異教徒」</p> <p>第13回 「首都」を離れるローマ人</p> <p>第14回 その後の「永遠の都」</p> <p>第15回 総括：「世界」を揺るがした三日間</p>											
<p>授業計画は一部変更になる可能性がある。</p> <p>開講日時は8月下旬の予定である。詳細は、5月上旬にKULASISを通じて連絡する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

レポート(100点)。詳細は授業中に説明する。
なお、成績評価は、到達目標に照らして行なう。

[教科書]

使用しない
資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

弓削達 『永遠のローマ』(講談社(学術文庫)、1991年) ISBN:406158989X (初版:講談社(世界の歴史3)、1976年。)

ブライアン・ワード=パーキンス(南雲泰輔訳) 『ローマ帝国の崩壊〔新装版〕:文明が終わるということ』(白水社、2020年) ISBN:9784560097847

南雲泰輔 『ローマ帝国の東西分裂』(岩波書店、2016年) ISBN:9784000026024

その他、授業中に随時紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習:関連文献を読み、授業内容へのイメージを膨らませておく。

復習:授業内容を批判的に復習する。

(その他(オフィスアワー等))

開講日時(8月下旬予定)が採点報告日以降であるため、成績報告は遅れる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学71

科目ナンバリング		G-LET26 76961 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学（講読） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ポーランド書講読									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本を講読する。											
Andrzej Chwalba, Wojciech Harpula, Polska-Rosja. Historia obsesji, obsesja historii, Wydawnictwo Literackie: Krak#243w, 2021.											
本書はポーランドとロシアの関係史のなかから争点となりがちな問題を取りあげて、ポーランドのジャーナリストとポーランド近現代史の専門家が語り合った、対話形式の本である。授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド・ロシア間の歴史認識をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学（講読）(2)へ続く -----											

西洋史学（講読）(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

（その他（オフィスアワー等））

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学72

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習I） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 I（西洋古代史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>西洋古代史の広範な歴史的事象と歴史学的論点を理解することで、自身の研究をさらに発展させる。一次史料と二次文献を批判的に分析し、その成果を自身の研究に取り入れ、国際レベルでの研究者となる基礎を形成する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。</p> <p>前期の演習では、古典期・ヘレニズム期の経済史を刷新したAlain Bresson, <i>The Making of the Ancient Greek Economy</i> (2016) を講読する。講読にあたって、一次史料の分析を組み合わせることで、基礎的な歴史的知識を養うと同時に、これまで学界で議論されてきた重要な論点の意義と将来性を見抜く能力を獲得する。各受講生は、この演習での経験をもとに、各自の研究の深化を図ってほしい。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. テクスト講読（13回） 3. まとめ・フィードバック（1回） 											
【履修要件】											
西洋古代史の分野で研究をおこなう大学院生の出席を授業の前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。											
----- 西洋史学（演習I）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習I）(2)

[教科書]

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

基本テキスト、一次史料、個別論文の予習が不可欠となる。大学院生は、関連する一次史料、二次文献も積極的に活用すること。さらに、この演習での経験をもとに、自身の研究の発展を目指す必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学73

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習I） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習I（西洋古代史演習）									
【授業の概要・目的】											
この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。											
【到達目標】											
西洋古代史の広範な歴史的事象と歴史学的論点を理解することで、自身の研究をさらに発展させる。一次史料と二次文献を批判的に分析し、その成果を自身の研究に取り入れ、国際レベルでの研究者となる基礎を形成する。											
【授業計画と内容】											
おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。 後期の演習では、受講生が順に各自の研究報告をおこなう。その際、それぞれのテーマに関係の深い文献を、受講生全員で講読する。											
1. 受講生の研究報告と関連文献の講読（14回） 2. まとめ・フィードバック（1回）											
【履修要件】											
西洋古代史の分野で研究をおこなう大学院生の出席を授業の前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。											
【教科書】											
使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
基本テキスト、一次史料、個別論文の予習が不可欠となる。大学院生は、関連する一次史料、二次文献も積極的に活用すること。さらに、この演習での経験をもとに、自身の研究の発展を目指す必要がある。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学74

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習II） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		甲南大学 文学部 教授 佐藤 公美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 II （西洋中世史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、ヨーロッパ史に関係する欧米の相対的に新しい英語研究文献を読解し議論する。これにより英語で専門研究文献を精読する力を養うとともに、現在の歴史学方法論、解釈理論、史料論、および研究上の諸論点を学び、理解を深め、ヨーロッパ史についての基本的な知識を身に着ける。本演習では中世史の文献を扱う。</p> <p>今回のテーマは前近代史における「個人」と「行為」である。</p> <p>歴史学の中核には、歴史を動かす主体は何かという問がある。個人か、集団か、構造か。それらの関係はどのようなものか。社会的な動物としての人間の理解にとって、「個」と「個」を超えた「つながり」の諸形態の関係の理解は本質的な重要性を持ち、それゆえに前近代にさかのぼる長期の歴史の中で問われなければならない永遠のテーマである。だがその時私たちの前に立ちはだかるのが「前近代の個人」を考えることは可能なのかという問題だ。</p> <p>今回の演習では、この問いから出発して、最新の研究成果に向き合い、歴史研究の思考力と知識と技術を磨きながら、参加者各自が新たなヨーロッパ史像を考えることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語による西洋史学の専門文献の読み方を習得する。 ・ 授業で扱うテーマを中心に、ヨーロッパ史に関する歴史学研究上の諸論点を理解する。 ・ 専門的な文献と史資料の理解に基づいた議論を行い、適格な説明や問題提起を行うことができるようになる。 ・ 各参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業は総合人間学部、大学院人間・環境学研究科、文学研究科の授業と共通。英語文献精読のテキストとして以下のものを用いる。</p> <p>I. Epurescu-Pascovici, Human Agency in Medieval Society, 1100-1450, The Boydell Press, 2021.</p> <p>近代を「個人の確立」の時代とみなす長い伝統と、史料上の困難のために、中世の個人は長い間集団に埋没した存在であると考えられてきた（あるいは史料の限界がそのように対象を扱うことを強いてきた）。だが本当にそうなのか。この古くて新しい問に切り込む本書の武器は二つある。社会学における行為理論の積極的導入と、近年有力な史料類型として注目されるエゴ・ドキュメントの利用である。これらを手掛かりに、史料に確かな土台を置きつつ理論と実証を統合する方法も探っていく。</p> <p>授業は基本的に以下の計画にそって進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 取り上げる文献の概要と方法論、研究状況についての導入的説明を行う。また中世史を中心にヨ</p>											
----- 西洋史学（演習II）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習II）(2)

ヨーロッパ史研究の基本的な道具を紹介し、授業の進め方の確認と担当の分担を行い、第2回・第3回に用いる導入用文献の配布を行う。

第2回～第3回 行為理論とエゴ・ドキュメントの史料論の概要について主に日本語の導入的文献を読解し議論を行う。

第4回～第14回 文献Human Agency in Medieval Society, 1100-1450の読解・発表・議論を行う。受講生の関心と必要に応じて、適宜補助的な資料の配布と読解、説明、議論を行う。

第15回 フィードバック

【履修要件】

ヨーロッパの歴史や文化に関心を持ち、英語の研究文献を読む意欲を有すること。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

【教科書】

I. Epurescu-Pascovici 『Human Agency in Medieval Society, 1100-1450』（The Boydell Press, 2021）
ISBN:9781783275762（テキストとなる文献の入手については別途指示する。補足資料は随時配布する。）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

文献の予習は必須。随時紹介・配布する参考となる文献や資料も読んでおくこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

演習では主体的に関わっただけの成長が得られるので、しっかり文献を読み込み準備をした上で、積極的に臨んでください。また、ぜひとも討論を大切にしてください。意見や疑問をぶつけあい共有することで、一人では決して得られないものにたどり着くことができます。共に学ぶためお互いに貢献し合ってほしいと思います。

質問その他は授業の前後の時間に受け付ける他、以下のアドレスへのメール連絡にも対応します。

hitomi@konan-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学75

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習II） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		甲南大学 文学部 教授 佐藤 公美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 II （西洋中世史演習）									
【授業の概要・目的】											
修士論文の作成や自らの研究の深めを目的として各参加者が自らの研究課題を定め、研究方法を学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 各演習参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 修士1回生は自らの研究課題を選択をして史資料や文献を収集、分析し、修士論文へ向けての準備をする。 修士2回生は修士論文のための研究を深化発展させる力を身に着ける。 											
【授業計画と内容】											
<p>参加者各自が設定したテーマに沿った個人研究の口頭報告と、参加者全員による質疑応答と討論、助言や指導を行う。</p> <p>また、場合によっては研究の技術と知識習得のための共通課題として、史料論の学習や史資料研究の実習にも一部の時間を充てる。</p> <p>総合人間学部、大学院人間・環境学研究科、文学部の授業と共通。</p> <p>基本的に以下の計画のそって授業を進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 参加者各自の興味や研究課題を確認し、授業の進め方の確認と発表の割り当てを行う。</p> <p>第2回～14回 受講生各自の研究発表 個人研究発表と質疑応答・討論を行う。受講生数や個々人の研究の現状に応じて、場合によっては史料論の学習、先行研究の紹介と批判的検討、史料の精読などに時間を割り当てる。</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
ヨーロッパの歴史や文化に関心を有すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。											
----- 西洋史学（演習II）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習II）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各自の研究テーマに沿って計画的に史料や文献の読み込み、分析、整理、考察を行い、研究を進めておく。また、口頭報告の準備には十分な時間をとること。

（その他（オフィスアワー等））

積極的に臨み、議論による共有と創造を楽しんでください。質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学76

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近世史演習）									
【授業の概要・目的】											
近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヨーロッパの近世はしばしば「印刷革命」の時代と呼ばれるが、この時代に生じたメディア環境の変革は、活版印刷術の発明と普及という技術的な次元にとどまらなかった。情報の産出・保存・流通の様式と規模が根本的に変化したのであり、それともなって政治・経済・学術・文化のあり方にも転換が生じた。これらの変化の総体を「情報革命」としてとらえ直し、多角的に論じた次の本をとりあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や考察の特徴について議論する。</p> <p>Paul M. Dover, The Information Revolution in Early Modern Europe, Cambridge University Press: Cambridge, 2021.</p> <p>参加者全員による討論をつうじて、ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、近世史を研究する手がかりとなる史料にはどのような特徴があるか、この時代を理解するためにはどのような視点や研究の手法が有効か、といった問題を、さまざまな角度から検討する。イントロダクション（第1回）に続けて、各回（第2回～第15回）に上記の本を読み、内容を理解したうえで、近世ヨーロッパ史にかかわる諸問題について議論する。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

【成績評価の方法・観点】

授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いにもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・ 毎回、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・ 議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学77

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近世史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>近世のヨーロッパ史上の個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。必要に応じて近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献をとりあげて読解し、議論する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・受講生各自が研究発表を行なうことにより、各受講生の専門的な研究を深化させるとともに、発表に説得力をもたせるにはどのような工夫が必要かを考え、実践する経験を積む。 ・関連する英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回以降： 参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う。 また、関連するテーマのについて英語による文献を全員で読解し、議論する。 参加者の研究発表には第2回から偶数回を、文献の読解・議論には第3回から奇数回をあてる予定であるが、受講生の人数によって変更することもありうる。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>研究発表、討論への参加の度合い、授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。</p>											
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・受講生各自が関心のあるテーマについて個別発表を行なうので、そのための研究を各自で進めておくことが必要である。
- ・文献を読む回については、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学78

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近代史演習）									
【授業の概要・目的】											
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、まとまった分量の欧米の研究文献を精読することを課す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティヴを持たざるを得ないだろう。そこで、本演習では、1～2回目にイントロダクションを行ったうえで、3～13回に、大きくまた斬新なテーマを多方面から詳細に扱っている研究文献Linda Colley, <i>The Gun, the Ship and the Pen: Warfare, Constitutions and the Making of the Modern World</i> (Profile Books, 2021)を、分担を決めて読んでいく。そして14～15回で総括をする。こうして、広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
各回の英語文献の予習は必須。内容理解を深めるために、関連する日本語文献も復習を兼ねて適宜読み進めていくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学79

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近代史演習）									
[授業の概要・目的]											
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、個別の自由発表を行うことを課す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史的な諸論点を理解することができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、1回のイントロダクションの後、2～14回に、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらい、批判的に議論をし、幅広い地域の諸テーマについて皆で理解を深め、15回目に総括する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
自由報告を行うための準備はおこたりにく進めるものとし、演習での指摘を活かして勉学を継続すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
受講者に対するこの演習の効果は、自分の報告のためにどれだけしっかり準備したか、そして他の報告にどれだけ批判的に介入し質問や提言などの形で貢献したかに左右される。ただ漫然と読んでまとめる、聞いて理解するというだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学80

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		武寧王陵の考古学									
【授業の概要・目的】											
1971年に発見された武寧王陵は、百済考古学のみならず、東アジアの考古学研究に少なからずの影響を与えてきた。本講義では、武寧王陵とその出土遺物について個別に検討する中で、その歴史的意義について検討をおこなう。											
【到達目標】											
東アジア考古学における武寧王陵の歴史的意味について学ぶ。 東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角の基礎を身につける。											
【授業計画と内容】											
おおむね以下の順序で講義を行う 第1回 武寧王陵を学ぶ意味 第2回 百済史の中における武寧王 第3回 武寧王陵が発見されるまで 第4回 武寧王陵の墓制・葬制(1) - 出土状況と墓誌の分析を通して 第5回 武寧王陵の墓制・葬制(2) - 夫婦合葬の伝統をめぐって 第6回 横穴式セン室の出現とその影響(1) 第7回 横穴式セン室の出現とその影響(2) 第8回 木棺をめぐる諸問題(1) 第9回 木棺をめぐる諸問題(2) 第10回 飾履をめぐる諸問題 第11回 冠をめぐる諸問題 第12回 耳飾をめぐる諸問題 第13回 陶磁器をめぐる諸問題 第14回 東アジア世界からみた武寧王陵 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価(小レポートなど)約30%、学期末レポート 約70%											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の講義で紹介する論文を是非よんで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学81

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮古蹟調査事業の展開と「日本」考古学史									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮半島における近代的考古学の調査研究は、20世紀の初めから敗戦を迎えるまで、日本人研究者によって進められた。そしてその調査研究成果は、日本「内地」における考古学にも少なからずの影響を与えている。本講義では、調査に参加した研究者の動向を中心として朝鮮古蹟調査事業を批判的に検討していく中で、「日本」考古学史について受講者と共に考えていきたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮考古学の歴史についての基本的な知識を身につける ・東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究するための視角を身につける ・朝鮮考古学史の諸問題を学んだことを通して、受講者が扱う地域・時代における学史研究についての理解を深めていくことができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の通り講義をおこなう。</p> <p>第1回 朝鮮考古学史を学ぶ意味 第2回 朝鮮半島の地理的・歴史的環境 第3回 朝鮮総督府古蹟調査事業の概要(1) 第4回 朝鮮総督府古蹟調査事業の概要(2) 第5回 濱田耕作・梅原末治による調査研究(1) 1918年度調査 第6回 濱田耕作・梅原末治による調査研究(2) 1920年度調査 第7回 濱田耕作・梅原末治による調査研究(3) 1921年度調査 第8回 今西龍による調査研究(1) 1906年度・1907年度調査 第9回 今西龍による調査研究(2) 1913年度・1914年度調査 第10回 今西龍による調査研究(3) 1916年度・1917年度調査 第11回 鳥居龍蔵による調査研究(1) 第12回 鳥居龍蔵による調査研究(2) 第13回 有光教一による調査研究 第14回 戦後の日本における朝鮮考古学研究 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート試験70%
平常点評価30% (講義に対する小レポートなど)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で紹介する遺跡・遺物や参考文献について、できる限り目を通して理解を深めて欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学82

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鏡と国家形成									
【授業の概要・目的】											
<p>弥生・古墳時代の銅鏡にたいして、研究者の関心はもちろん、世間の関心も高い。三角縁神獣鏡が出土すると、新聞などで大きく報道される。テレビや一般書などにおいて当該期の鏡は、巫女的な人物やスピリチュアルなイメージで理解される傾向が強いが、実際に鏡は政治性の高い器物であった。本講義では、弥生時代から古墳時代にいたるまでの銅鏡をとりあげ、国家形成理論のひとつ「権力資源論」を導きの糸にしなが、ら、「イデオロギー」「経済」「政治」「領域」「社会関係」の側面から、鏡が日本列島の国家形成に決定的な役割をはたしたことを明示する。</p>											
【到達目標】											
<p>銅鏡という特定の器物から国家形成という広大な歴史事象に迫るための、考古学的な手法や手順を理解できるようになる。器物がはたす社会的役割への感性を涵養できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. イントロダクション【1週】 2. 弥生～古墳時代の鏡【4週】 甕棺墓、中国鏡、青銅器、前方後円墳、三角縁神獣鏡、倭製鏡 3. 国家形成の論理【1週】 4. 鏡とイデオロギー操作【2週】 凶像、沖ノ島、副葬/非副葬鏡 5. 鏡の配布【3週】 邪馬台国、倭王権、同範鏡論、威信財論 6. 鏡の保有【2週】 首長墓系譜、人骨 7. 鏡と国家形成【2週】 倭国、国家形成、都市国家/領域国家 * 計15週実施する。 * 事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより成績を評価する。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

弥生～古墳時代に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古墳と政治秩序									
【授業の概要・目的】											
<p>ここしばらく古墳が世間で人気を博している。その巨大さと前方後円墳を頂点とする複数の墳形、そして広域分布するありようを手がかりに、築造期である古墳時代の政治構造を究明する研究が推進されてきた。</p> <p>本講義では、「古墳と政治秩序」に関する既往の研究の到達点と問題点を承けて、最新のデータと編年案に即して、古墳の階層構成 被葬者像 古墳の機能的役割 などに焦点をあてつつ、古墳の政治史的意義の解明につとめる。</p>											
【到達目標】											
<p>古墳は墳形・付帯施設・埋葬施設・副葬品・外表施設などからなる複合体であり、しかも古墳は局地・小地域・地域・列島広域でさまざまな存在様態を示す。このような複雑な古墳のありようを認識するための分析視点を学びとり、歴史的な問題に迫る学問的方法を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. イントロダクション【1週】</p> <p>2. 古墳と政治史【4週】 前方後円墳体制、前方後円墳秩序、前方後円墳国家、首長墓系譜、在地首長制論</p> <p>3. 大和・河内の巨大前方後円墳群【2週】 古市古墳群、百舌鳥古墳群、大和古墳群、佐紀盾列古墳群、馬見古墳群</p> <p>4. 畿内の大型古墳群【2週】 玉手山古墳群、弁天山古墳群、向日丘陵古墳群</p> <p>5. 畿内の階層構成【1週】</p> <p>6. 各地の階層構成【3週】 東国の古墳、西国の古墳</p> <p>7. 古墳と政治秩序【2週】 国造、県主、帝紀、国家形成</p> <p>* 計15週実施する。 * 事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより成績を評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳(時代)に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET23 26601 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本史学)(講義) Japanese History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代史通論									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代史のうち、文献史料による研究が十分可能な3～11世紀、すなわち倭国時代から平安時代 摂関期までの歴史を通観する。いくつかのテーマを設定し、新しい研究や新しい史料を紹介しながら、 近年の日本古代史研究では何が明らかにされてきたか、いかなる方法が用いられてきたかを述 べる。列島社会に政治的なまとまりが生まれ、中央集権国家「日本」が誕生してくる歴史、それが 段階的に変容していく歴史を跡づけることにより、日本の社会・国家・文化の古層に関する豊かな 認識を得ることを目標としたい。なお、本講義で扱う時代幅はいささか限定的であるが、その前後 の時代を幅広く見通し、また日本史一般を理解する上で必要な知識・方法を述べるものであって、 日本史学全体についての研究入門と位置づけている。</p>											
【到達目標】											
<p>日本史、特に古代史に関する基本的な知識を身につけるとともに、歴史を認識・再構成するための 方法について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、理解度に応じて詳しく説明したり、 新しい発見を紹介することなどもあるため、各テーマの内容・回数・順序については柔軟に考える ことにする。</p>											
<p>第01回 序説：日本史・日本古代史の領域 第02回 邪馬台国 第03回 初期の倭王権 第04回 タニハの大県主 第05回 ホムタワケの登場 第06回 ワカタケル大王の時代 第07回 秦氏のヤマシロ移住 第08回 オホド大王の新王朝 第09回 仏教伝来 第10回 聖徳太子の実像 第11回 二つの王家 第12回 大化改新と難波宮 第13回 律令体制の形成とユーラシア 第14回 公民制と調庸制 第15回 方格と直線の地割 第16回 古代仏教のネットワーク 第17回 天平の疫病大流行 第18回 黄金郷の原像 第19回 女性天皇と太上天皇 第20回 交野行幸と百濟王氏</p>											
----- 系共通科目(日本史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(日本史学)(講義)(2)

- 第21回 古代王宮の変貌
第22回 承和の転換
第23回 古代荘園
第24回 楽舞と和歌
第25回 古代末期の地方寺院
第26回 摂関政治と貴族社会
第27回 国風文化
第28回 女真海賊事件の前後
第29回 古代から中世へ
第30回 総括：世界史の中の日本古代史

【履修要件】

高等学校等で「日本史B」を履修したこと、もしくはそれと同等の学力を有すること。

【成績評価の方法・観点】

毎回の小レポート(30点)、期末レポート(1回、70点)により評価する。
ともに到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

吉川真司『シリーズ日本古代史3 飛鳥の都』(岩波新書)ISBN:978-4004312734

吉川真司『天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京』(講談社学術文庫)ISBN:978-4062924825

【授業外学修(予習・復習)等】

講義で基本史料や参考文献を示すので、できるだけ読んでおくこと。
講義でふれた遺跡・史跡については、できるだけ見学すること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 26701 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(東洋史学)(講義) Oriental History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国専制国家の形成									
【授業の概要・目的】											
<p>秦始皇帝の天下統一（221BC）から清朝宣統帝の退位（1912）までの2000年あまり、中国では、皇帝が官僚を用いて集権的に人民を支配する専制国家が持続した。中国専制国家は自らを「中華」とし周辺諸民族を「四夷」とみなす「中華帝国」であった。「中華帝国」のもとで培われた政治文化は21世紀の現代に至るまでその痕跡をとどめている。本講義では秦の天下統一に至る歴史的推移を概観しつつ、中国専制国家の特質を考える。</p>											
【到達目標】											
中国史研究の最新の知見、および史料の批判的分析の方法論を習得する。											
【授業計画と内容】											
以下の項目を逐次論ずる。											
第1回 「中華帝国」の推移											
第2回 「中華帝国」起源論としての先秦史											
第3回 龍山期・二里头文化：国家の形成											
第4回 夏王朝											
第5回 殷前期・中期											
第6回 殷後期											
第7回 西周前期：周王朝の建国											
第8回 西周中期・後期：周王朝の変容											
第9回 『春秋』											
第10回 『左伝』											
第11回 『繫年』											
第12回 東遷期											
第13回 春秋前期前半：鄭莊公の小覇											
第14回 春秋前期後半：齊桓公の覇権											
第15回 春秋中期：晋文公の覇者體制											
第16回 秦											
第17回 楚											
第18回 呉											
第19回 春秋後期：晋覇の動揺											
第20回 『史記』											
第21回 孔子											
第22回 『竹書紀年』											
第23回 戦国前期：魏文侯・魏武侯											
第24回 戦国中期：魏恵王											
第25回 孟子											
----- 系共通科目(東洋史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(東洋史学)(講義)(2)

- 第26回 戦国後期：秦の独走
第27回 華夷思想
第28回 秦始皇帝の天下統一
第29回 前漢前期の秦史認識
第30回 「封建」と「郡縣」：伝統中国における専制国家批判

*フィードバック方法は授業中に説明する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。

【教科書】

講義資料は担当者が準備する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『資治通鑑』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>長らく為政者の必読書とされてきた『資治通鑑』を読むことによって、漢文読解の力を養うだけでなく、中国の知識人が歴史から何を読み取ろうとしたかを考える機会を提供する。</p> <p>なお、本授業は東洋史学専修進学者の必修単位であるので、東洋史に進もうと考えている者は2回生のうちに履修しておくのが望ましい。</p> <p>他の専修に進む予定の人も歓迎する。「最後の漢文学習の機会」と考えて参加してほしい。</p>											
【到達目標】											
<p>1、漢文史書の読解力の基礎ができる。</p> <p>2、漢文史書の叙述のスタイルを体得できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>今年北魏の東西分裂に関係する部分を中心に選読する。なお、南朝の動向については華北の情勢と関係しない限りは取り上げない。授業の進捗については受講生次第なので、明確に計画を示すことはできないが、次のように予定している。</p> <p>1回 『資治通鑑』がいかに読まれてきたかを紹介 2～5回 爾朱榮の台頭(526～529) 6～11回 爾朱榮の殺害(530) 12～18回 高歡の台頭(531～535) 19～25回 両雄の激突(536～543) 26～29回 高歡の死(544～547) 30回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----											

東洋史学(講読)(2)

[教科書]

プリントしたものを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

一回前の授業で次の授業分のテキストを配布する(B4用紙で1, 2枚)ので、そのなかの担当分について予習し、あらかじめ訳稿を提出すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>今年、M.S. Saarela, <i>The Early Modern Travels of Manchu: A Script and Its Study in East Asia</i>, 2020を読む。本書は大清帝国のリンガ・フランカである満洲語および満洲文字に対して、漢人、朝鮮人、日本人、そして欧州人がどのようにアプローチしてきたかを追究したものである。満洲語自体のそれぞれの社会における影響力は小さなものだが、満洲語にトライした人々の言語学的アプローチは、それぞれの言語観と密接に関連しており、本書は比較言語・文化論としても読みうるだろう。なお、本授業は東洋史の必修である漢文講読とは異なり、必修ではない。東洋史に進もうとする学生やすでに東洋史に在籍している学生ではなくても、近世のグローバル・ヒストリーに関心を持つ人の受講を歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<p>1 , 正確な英文和訳の力を身に着けることができる。 2 , 言語・文字について多角的に考えることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>イントロダクション(1回) Introduction. A Cultural History of the Manchu Script (2 ~ 3回) Chapter 1. To Follow Fuxi or Kubilai Khan? Written Manchu Before 1644 (4 ~ 6回) Chapter 2. The Beijing Origins of Manchu Language Pedagogy, 1668 ~ 1730 (7 ~ 10回) Chapter 3. Phonology and Manchu in Southern China and Japan, c. 1670 ~ 1716(11 ~ 13回) Chapter 4. Manchu Words and Alphabetical Order in China and Japan, 1683 ~ 1820s (14 ~ 16回) Chapter 5. Leibniz ' s Dream of a Manchu Encyclopedia and Kangxi ' s Mirror, 1673 ~ 1708 (17 ~ 19回) Chapter 6. The Manchu Script and Foreign Sounds from the Qing Court to Korea, 1720s ~ 1770s (20 ~ 22回) Chapter 7. The Invention of a Manchu Alphabet in Saint Petersburg, 1720s ~ 1730s (23 ~ 25回) Chapter 8. The Making of a Manchu Typeface in Paris, 1780s ~ 1810s (26 ~ 28回) Conclusion (29回) フィードバック(30回)</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----											

東洋史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点。

[教科書]

授業で配布する

[参考書等]

(参考書)
特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

担当範囲の英文を日本語訳して提出する。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学88

科目ナンバリング		U-LET24 36761 PJ36											
授業科目名 <英訳>		東洋史学(実習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授	吉本 道雅	文学研究科 教授	中砂 明德	文学研究科 教授	高嶋 航
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	実習	使用 言語	日本語		
題目		東洋史学(実習)											
【授業の概要・目的】													
全教員3人によるリレー担当。東洋史学研究のうち、特に中国史の全時代にわたって、先行研究をどのようにして探るか、古文書をどのようにあつかうか、コンピューターを研究にどのように用いるかなど実習させるとともに、自らテーマを選んで「小論文」を発表させる。													
【到達目標】													
東洋史の卒論を書くにあたって基本的なスキルを習得できるようにする。													
【授業計画と内容】													
第1回～第30回： 主に3回生を対象とする。東洋史学専修の全教員が1年間にわたり、東洋史学を研究するにあたってのツール(工具)を教え、学生に実際に使わせる。先行研究の探し方を教えるとともに、優れた先行研究を選んで学生に読ませ、先人の達成したものを学びつつ、自らがおかれた研究状況を考えさせる。 11月頃までにツールの修得や先行研究の選読を終え、自らの問題関心に即した研究テーマを選ばせる。それまでに修得した知識と方法をもとにして、自ら先行研究を探し、あるいは原典の一部を読むことによって、自らの問題に解答を与えさせる。1月中頃にこれを「小論文」として授業で発表させる。 *フィードバック方法は授業中に説明する。													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
平常点と「小論文」の発表を評価する。													
【教科書】													
授業中に指示する													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
毎回提出される課題を準備しておくこと。一年間を通して卒論のテーマを絞り込めるようにつねひごろから関心を持っておくこと。													
(その他(オフィスアワー等))													
授業は各教員の研究室で行う													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		U-LET25 26801 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西南アジア史学)(講義) West Asian History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム世界史研究入門 An Introduction to the Study of History of the Islamicate World									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、初学者向けにイスラーム世界史の研究に必要な基礎的な知識を説明する。勿論、アフリカ大陸から東南アジアに及ぶ広大なイスラーム世界の歴史すべてを、一人の教員でカバーすることなど出来ない。従って、授業の内容は、イスラーム世界史の理解、研究に最低限必要な事項（たとえばイスラーム教の基本的な教義など）の説明に重点が置かれる。</p> <p>This course aims to explain students of such basic knowledge and skills required to engage in the research activity into history of the Islamicate world as essential teachings of Muslim religion, crucial events in its history, and so on.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界を理解するために最低限必要な専門的知識を獲得し、これにもとづきイスラーム世界の現状について自分自身の見解を持つことが出来る。 ・イスラーム世界史の研究に必要な基礎的知識を獲得し、自ら研究を開始することが出来る。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire necessary knowledge for understanding current picture of the contemporary Muslim world. (2) obtain essential knowledge required for the research activity into history of the Muslim world.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業で扱うトピック、および、各トピックに配当される目安となる授業時間は下記の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入：現代イスラーム世界の概観（2回） イスラーム世界の範囲、人口、ヨーロッパのムスリムなど ・イスラーム教の基礎知識（2回） コーランとハディース、および、その日本語訳書の紹介など ・イスラーム世界史の概観（12回） イスラーム教の成立、イスラーム世界の拡大過程、シーア派とスンナ派の形成、19世紀までのイスラーム世界など ・イスラーム法（3回） イスラーム法と法学派の形成、近代におけるイスラーム法の法典化など ・イスラーム世界史研究入門（3回） 各種工具書の紹介、研究対象となる時代・地域別に必要な言語、辞書、歴史資料の類型など ・ワクフ（2回） ワクフ制度の説明、ワクフ文書の実例紹介など ・知識の伝達（2回） 口承の重要性、マドラサとそのカリキュラムなど ・スーフィズム（2回） 「スーフィズム（イスラーム神秘主義）」の概要、歴史研究におけるスーフィズムなど ・イスラーム法廷（2回） 											
----- 系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)

「法廷文書」とその類型、法廷の役割、裁判のながれ、「法廷文書」の歴史資料としての可能性など

- Contour of the contemporary Islamic world (2 weeks)
- Basic teachings of the Muslim religion (2 weeks): al-Quran and Hadith (the traditions about the words and deeds of Prophet Muhammad)
- Brief explanation of history of the Muslim world (12 weeks)
- Islamic law (3 weeks)
- How to embark on the research into history of the Islamicate world? - dictionaries, tools, and typology of historical sources (3 weeks)
- Waqf (pious donation) (2 weeks)
- The way of transmitting knowledge in the pre-modern Islamicate world - the curriculum of madrasa (2 weeks)
- Sufism in history (2 weeks)
- Sharia court documents (2 weeks)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験（筆記）により評価する。

Final exam

【教科書】

使用しない

担当教員が作成するレジユメを教科書とする。尚、レジユメは紙媒体では配布せず、PDFファイルを配布する。ファイルの受信方法については、初回授業時に説明する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

初回授業を除き、必ず前回の授業内容を復習したうえで授業に臨むこと。また、前回の授業で参考書、関連URL等が提示された場合は、予めこれに目を通したうえで次回の授業に臨むこと。

Students should review class notes before attending each lesson.

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学90

科目ナンバリング		U-LET25 36840 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習Ⅰ) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史に関する英文文献講読 Reading English text about Western and Southern Asian history									
【授業の概要・目的】											
<p>西南アジア史、イスラーム史の初学者である学部生を対象として、比較的近年に刊行された英語のイスラーム史概説（詳細は「授業計画と内容」を参照）を講読する。イスラーム史に関する基礎的知識を獲得するだけでなく、英語の研究文献においてアラビア語の歴史用語がどのような語に置き換えられているのかを知ること、本授業の大きな目的の一つである。</p> <p>In this course students read English text on Umayyad and Abbasid history that constitutes a part of 'The New Cambridge History of Islam, vol. 1 (Cambridge University Press, 2010),' the first volume of a multivolume edition of comprehensive history of the Islamicate world. Through reading the text students will gain an adequate knowledge not only about early stages of the development of Muslim history, but also the rules for translating Arabic technical terms into English.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム史に関する海外の研究動向について知り、これを他者に対して説明することができる。 ・イスラーム史に関する英語の研究文献に頻出する専門用語の意味を知り、これに対応するアラビア語その他の現地語における原語を指摘することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) be informed of contemporary research trend in the field of history of the Islamicate world. (2) understand the meaning of technical terms which frequently appear in research literature on the field. 											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・講読対象とする文献は、The New Cambridge History of Islam, vol. 2, Cambridge University Press, 2010.である。 ・各回の授業では、受講者全員がテキストの翻訳を実施する。 <p>Each student will be required to translate the English text into Japanese.</p> <p>Week 1: (講読文献、および、講読箇所の説明と各回の担当者決定) Explaining the rules of this course. Each student will be assigned some part of the text. Weeks 2-4: Gary Leiser, "The Turks in Anatolia before the Ottomans," pp. 301-312. Weeks 5-9: Kate Fleet, "The Rise of the Ottomans," pp. 313-331. Weeks 10-14: Colin Imber, "The Ottoman Empire (Tenth/ Sixteenth Century)," pp. 332-347. Weeks 15-20: Colin Imber, "The Ottoman Empire (Tenth/ Sixteenth Century)," pp. 347-365. Weeks 21-29: Suraiya Faroqi, "The Ottoman Empire: The Age of 'Political Households' (Eleventh-Twelfth/ Seventeenth-Eighteenth Centuries)," pp.366-398. Week 30: (これまで講読した内容についての議論)</p>											
----- 西南アジア史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習Ⅰ)(2)

Having discussion on the key issues presented by the authors.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

参加者の受講姿勢と講読担当の内容によって評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

Maribel Fierro (ed.) 『The New Cambridge History of Islam, vol. 2』 (Cambridge University Press, 2010)
Handouts will be shared through Google Drive

【参考書等】

(参考書)

必要な資料は適宜PDFしたうえ、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

【授業外学修(予習・復習)等】

授業では受講生全員が翻訳に参加する。必ず予習をしておくこと。

All Students are required to make an adequate preparation for reading the text so that they can participate in translation work.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学91

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史学実習 Practice education for Western and Southern Asian history									
【授業の概要・目的】											
<p>学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。</p> <p>The main purpose of this course is to explain students the essential skills necessary to undertake research activity into history of the Islamicate world.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire knowledge about the basic tools required to undertake research activity as dictionaries, encyclopedias, websites, and so on.</p> <p>(2) be able to decide their own topics of research.</p> <p>(3) be able to make a presentation about the contents of a professional paper relating to his/her topic of research.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 後期授業の進め方について</p> <p>第2回 期末の研究発表に向けての個人指導</p> <p>第3-5回 日本語論文の内容紹介発表</p> <p>第6回 期末の研究発表に向けての個人指導</p> <p>第7-9回 英語論文の内容紹介発表</p> <p>第10回 期末の研究発表に向けての個人指導</p> <p>第11-13回 英語論文の内容紹介発表</p> <p>第14-15回 研究発表</p> <p>Week 1: Explaining the tasks which will be assigned to students in the 2nd semester</p> <p>Week 2: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester</p> <p>Weeks 3-5: Making a presentation about a research essay written in Japanese</p> <p>Weeks 6: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester</p> <p>Weeks 7-9: Making a presentation about a research essay written in English</p> <p>Weeks 10: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the</p>											
----- 西南アジア史学(実習)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(実習)(2)

semester

Weeks 11-13: Making a presentation about a research essay written in English

Weeks 14-15: Making a research talk

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。

Participation (50%)

Presentations (50%)

【教科書】

使用しない

必要資料を電子ファイル化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

Students are required to make adequate preparations for each presentation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学92

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史学実習									
【授業の概要・目的】											
学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 各時代、地域を研究するにあたり習得が必要な言語、および、辞書についての説明</p> <p>第2回 日本語および英語による事典、工具書類の説明</p> <p>第3回 インターネットを利用した各種文献の検索方法とその実践</p> <p>第4回～第6回 専門論文の読み方、自身の研究への利用方法、レジュメ化の方法について</p> <p>第7回～第9回 受講生各人が選択した時代、地域について、主に概説書等に基づきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>第10回～第12回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が日本語の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>第13回～第15回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が英語（または、それ以外の外国語）の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。											
----- 西南アジア史学(実習)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(実習)(2)

[教科書]

授業の際に必要な資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学93

科目ナンバリング		U-LET26 26901 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋史学)(講義) European History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋史学序説									
【授業の概要・目的】											
<p>授業全体のテーマ：ヨーロッパ史学史にみる歴史への接近法 過去は変えられない。しかし、歴史は変わる。歴史とは、過去の見方である。すなわち、歴史を学ぶとは、単に重要な過去の事実を幅広く記憶するというだけではなく、多分に、過去の見方の多様性や変遷を知ることにはかならない。そして、さまざまな見方に触れるほどに、現在や未来の諸課題にも、柔軟性をもって取り組むことができるであろう。そこで本講義では、近代歴史学の基礎をなし、現在もなお世界の歴史研究にとって重要なインスピレーションの源となっているヨーロッパの歴史叙述の歴史を概観する。それによって、けっして時代遅れでも有効期限切れでもない、しかも、互いに相いれないがいずれも説得的でもあるような、多彩な過去の見方を紹介し、歴史学的思考を深める素材を提供することを目的とする。そして、「西洋史学」の由来や現状や意義を解説する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・古代から現代にいたるヨーロッパ史の展開を把握し、各時代の全般的な状況について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識や歴史叙述の歴史についての基本的な知識を習得し、それぞれの時代の特徴について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識の特徴についての理解を深め、「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について各自の関心に即して考察する。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下のようなテーマをとりあげる予定。</p> <p>第1回 過去とは何か / 歴史叙述とは何か / 「西洋史学」とは何か 第2回 古代ギリシアと歴史の誕生 第3回～第4回 古代ローマの歴史叙述 第5回～第6回 中世ヨーロッパにおける歴史叙述 第7回 ルネサンスと歴史叙述 第8回 宗教改革の時代における歴史叙述 第9回 啓蒙の時代の歴史叙述 第10回～第11回 近代歴史学の誕生 ランケとブルクハルト 第12回～第13回 ヘーゲル・マルクス・ヴェーバー 第14回 歴史主義への反発 第15回 前期の授業内容をふまえた総括 (以上、前期) 第16回 論争する現代歴史学 第17回～第18回 アナール学派(第一世代) 第19回～第20回 アナール学派(第二世代) 第21回～第22回 アナール学派(第三世代)</p>											
----- 系共通科目(西洋史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋史学)(講義)(2)

第23回～第24回 アナール学派(第四世代)

第25回 17世紀危機論争

第26回 「西洋の勃興」をめぐる論争

第27回 ジェンダーをめぐる論争

第28回 時代区分をめぐる論争

第29回 感情をめぐる論争

フィードバックについては授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

前期と後期に各1回、レポートの提出を求める。成績の評価は提出されたレポートにもとづいて行う。

授業でとりあげた文献のなかから各受講生が1ないし複数の文献を選択し、その内容について論述することをレポート課題の内容とする。レポートの評価にあたっては、文献の読解の正確さ、ヨーロッパ世界における歴史認識の特徴にかんする理解度、文章表現や論理構成の適切さなどを総合的に評価する。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』(京都大学学術出版会、2010年) ISBN:978-4-87698-948-5(京都大学における西洋史学研究・教育への導入解説をおこなっており、本講義全体を通じて参考となるであろう。)

金澤周作監修『論点・西洋史学』(ミネルヴァ書房、2020年) ISBN:978-4-62308-779-2

上記の本以外の参考文献については、テーマに応じて、授業中に紹介する。

【授業外学修(予習・復習)等】

授業のなかで、関連する文献のリストを提示する予定である。受講者には、各自の関心にしたがってリストから文献を選び、読み進めていくことを期待する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

系共通科目(西洋史学)(講義)(3)へ続く

系共通科目(西洋史学)(講義)(3)

オフィスの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学94

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ヤン・アスマンの記憶論を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、おもに西洋史学の分野で必要とされる、学術的なドイツ語の読解能力を養成することを目的とする。利用するテキストは、Jan Assmannによる文化的記憶に関する諸著作のなかでも、特にDas kulturelle Gedächtnis: Schrift, Erinnerung und politische Identität in frühen Hochkulturen (1992)とする。文化的記憶が歴史学全般に大きな影響を及ぼしてすでに久しいが、本授業ではAssmannの著作の講読を通じて、文化的記憶という概念が古代世界にどのように適用できるのかを理解することを目標とする。</p>											
【到達目標】											
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。さらに受講生は、歴史学全般に大きな影響を与えている概念である文化的記憶について、その意義と具体例を学ぶことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回-第13回 テキスト講読</p> <p>第14回 授業中試験</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
ドイツ語の基礎文法を既習していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50パーセント）と授業中試験（50パーセント）で総合的に勘案する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストの指定範囲を事前に予習すること。また、同時にドイツ語文法・語彙の習熟に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学95

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ヤン・アスマンの記憶論を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、おもに西洋史学の分野で必要とされる、学術的なドイツ語の読解能力を養成することを目的とする。利用するテキストは、Jan Assmannによる文化的記憶に関する諸著作のなかでも、特にDas kulturelle Gedächtnis: Schrift, Erinnerung und politische Identität in frühen Hochkulturen (1992)とする。文化的記憶が歴史学全般に大きな影響を及ぼしてすでに久しいが、本授業ではAssmannの著作の講読を通じて、文化的記憶という概念が古代世界にどのように適用できるのかを理解することを目標とする。</p>											
【到達目標】											
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。さらに受講生は、歴史学全般に大きな影響を与えている概念である文化的記憶について、その意義と具体例を学ぶことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回-第13回 テキスト講読</p> <p>第14回 授業中試験</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
ドイツ語の基礎文法を既習していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50パーセント）と授業中試験（50パーセント）で総合的に勘案する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストの指定範囲を事前に予習すること。また、同時にドイツ語文法・語彙の習熟に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学96

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の前半（序文、I-IV章）を講読する。											
Nicolas Offenstadt, L'historiographie, PUF: Paris, 2011.											
本書は Que sais-je? シリーズの1冊で、歴史学と歴史叙述にかかわる基本的な諸問題について解説した入門書である。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション											
第2～14回 訳読と解説											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学97

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の後半（V-VIII章）を講読する。											
Nicolas Offenstadt, L'historiographie, PUF: Paris, 2011.											
本書は Que sais-je? シリーズの1冊で、歴史学と歴史叙述にかかわる基本的な諸問題について解説した入門書である。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学98

科目ナンバリング		U-LET26 26958 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
以下の文書をテキストとする予定である。											
(1833) [ゲルツェン「コペルニクス											
の太陽系の分析的解明」]											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。											
第1回：イントロダクション											
第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史文化学99

科目ナンバリング		U-LET26 26958 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
【授業の概要・目的】											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
【到達目標】											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
【授業計画と内容】											
前期に引き続き、以下の文書をテキストとする予定である。											
(1833) [ゲルツェン「コペルニクス の太陽系の分析的解明」]											
受講に際しては、イントロダクションで前期読了分の要約等をおこない、 後期のみ受講者にも支障がないよう配慮する。											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更している可能性もある。 その場合は初回授業までにPandA等で告知する。											
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、火曜4限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 28007 LJ36											
授業科目名 <英訳>		博物館学III(講義) Museum Science III				担当者所属・ 職名・氏名		京都国立博物館 学芸課 特任研究員				宮川 禎一	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語		
題目		博物館学 (博物館資料論)											
【授業の概要・目的】													
博物館・美術館の学芸員の仕事を博物館業務の実態をもとに具体的に講義する。特に作品・資料の収集・搬入の方法、また作品の取り扱い方法や収蔵庫や展示場での保存方法を中心に講義を進める。すなわち資料作品の収集・管理・研究・展示・運搬など資料にまつわる具体的作業について述べる。また京都国立博物館で実際に企画運営されている展覧会の実情を述べて博物館・美術館学芸員の役割への理解を深める。さらには実際の展覧会・展示場の見学もあわせて博物館美術館業務への認識を向上させることを目的とする。													
【到達目標】													
<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館・美術館の成り立ちと意義 - 博物館とはなにかを理解する 2 作品の種類と性質 - 資料の性質と収蔵の問題を考えて理解する 3 博物館における作品の収集とは - 寄託・寄贈・購入の実態を理解する 4 作品の保存処理 - 作品を科学的に守る方法を理解する 5 収蔵庫の要件 - 保存環境の問題を理解する 6 作品の貸借と作品保護 - 保存と公開のあいだにある問題を理解する 7 展覧会の作り方 1 - 展示を構想し出品をめざすことの意味 8 展覧会の作り方 2 - 展示に際しての諸問題があることを理解する 9 展覧会図録の作り方 - 鑑賞を助け、未来に記録する意義を理解する 10 良い展覧会とは何か? - 人と作品の関係と展覧会の意義を考える 11 実際に展示を見学しよう - 実際の展示からわかる保存と公開の問題を考える 12 博物館美術館の未来 - デジタル化の行方と未来の展示を考える 13 世界の博物館・美術館 - 世界にある様々な博物館美術館のありかたを考える 14 学芸員になるには - 求められる学芸員の資質に関して考える 15 博物館をめぐるディスカッション - これまでの講義を受けて学生と討論する 													
【授業計画と内容】													
<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館美術館の成り立ちと意義 2 作品の種類と性質 3 博物館における作品の収集 4 作品の保存処理 5 収蔵庫の要件 6 作品の貸借と作品保護 7 展覧会の作り方 (1) 8 展覧会の作り方 (2) 9 展覧会図録の作り方 10 良い展覧会とは何か? 11 実際に展示を見学しよう (京都大学総合博物館の展示見学) 12 博物館美術館の未来 13 世界の博物館・美術館 													
----- 博物館学III(講義)(2)へ続く -----													

博物館学III(講義)(2)

- 14 学芸員になるには
15 博物館をめぐるディスカッション

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

受講態度およびレポートの成績で評価する。
受講態度30%、レポート内容70%の割合で評価する。

[教科書]

講義中に適宜資料等を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

博物館・美術館の展覧会図録を図書館などで読んで、図録のありかたに興味をもってほしい。また日本歴史・考古学・美術史などの図書も積極的に読んで欲しい。

[授業外学修(予習・復習)等]

学芸員を目指し、資格を得ようとする学生のための講義であるので、受講生は日ごろから問題意識をもって博物館・美術館などの見学を行ってほしい。また講義を超えて展示物や解説から自己の学術的興味の範囲を広げてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

日時は定めていないが、京都国立博物館での講義(例えば土曜日午後など)を行うのでそのつもりでいてほしい。

【履修上の注意点】

資格取得のための科目であり、卒業に単位として認められないので注意して履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。